



# 名古屋城三の丸地区まちづくり構想（案）

— 進化と変化で官庁街を“ひらく” —



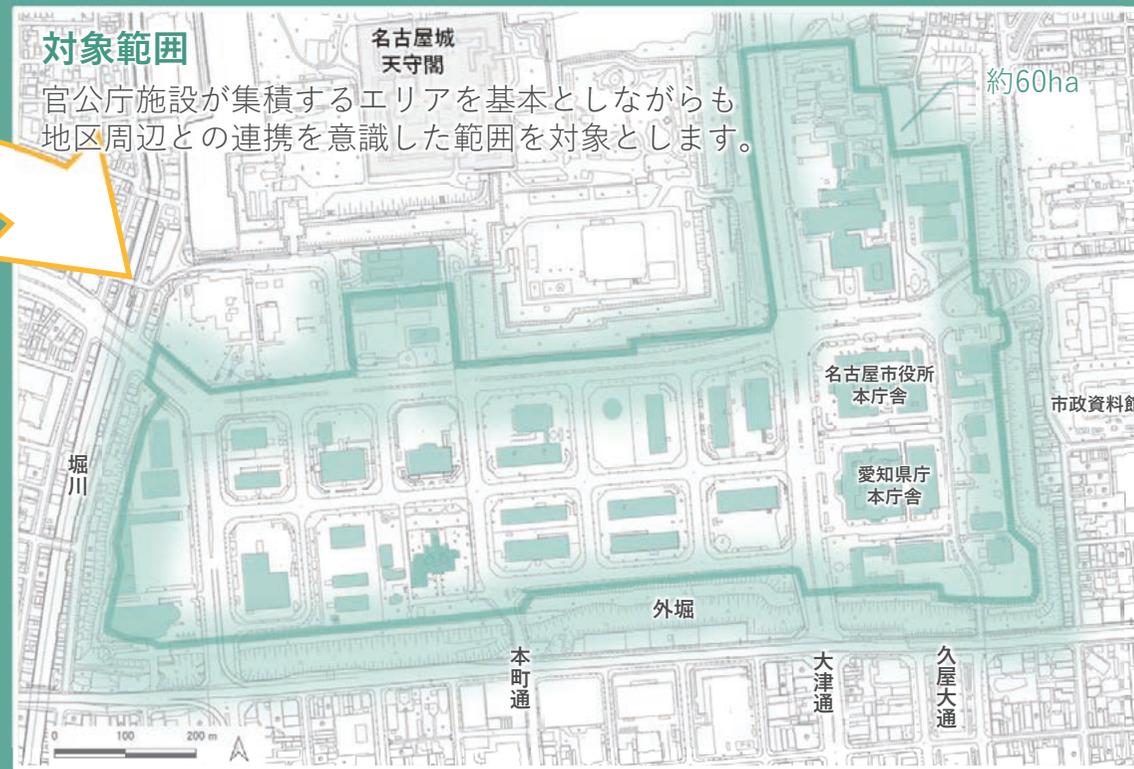
令和8年〇月  
名古屋市

# はじめに – まちづくり構想策定の目的 –

名古屋城三の丸地区は、国・県・市の官公庁施設が集積する中部圏の行政機能の中核で、独自の建築ルール等により、みどり豊かな整然とした官庁街が形成されています。しかし、多くの官公庁施設は老朽化が進んでおり、今後、一斉に更新時期を迎えます。対して、地区周辺では、久屋大通の再整備や愛知国際アリーナ（IGアリーナ）の開業、木造天守復元事業をはじめとする名古屋城の整備など、まちの魅力向上が進んでいます。

こうした地区内外の変化の中で、当地区の役割や位置づけを整理し、当地区をリニア時代のあいち・なごやの新たな顔として成長・発展させていくために、社会経済・環境などの潮流や、名古屋駅地区・栄地区などの周辺地区とのつながりを意識したまちづくりを進める第一歩として、まちづくり構想を策定します。

まちづくり構想は、まちづくりにおいて何を大切にし、どのように進めていくのか、さらに、概ね30年後の三の丸はこうありたいという姿を示しています。この構想の策定を機に、当地区への意識やまちづくりへの関心を高めるとともに、多様な主体で将来像を共有・連携して公民共創のまちづくりを推進します。



# 目次

01. 三の丸ってどんな場所？
02. なぜいま 三の丸でまちづくり？
03. 三の丸のまちづくりとは
04. めざすまち
05. めざすまちの実現に向けて

# 三の丸ってどんな場所？

- a. 地区の歴史
- b. 地区の文化など
- c. 現状と課題

01

## 古くからある場所

### 名古屋城三の丸地区の成り立ち

名古屋城三の丸地区は熱田台地の北西に位置しています。熱田台地は縄文時代以前に海底に堆積した地層が海面の低下で地上に現れたもので、南端には熱田神宮が位置しています。

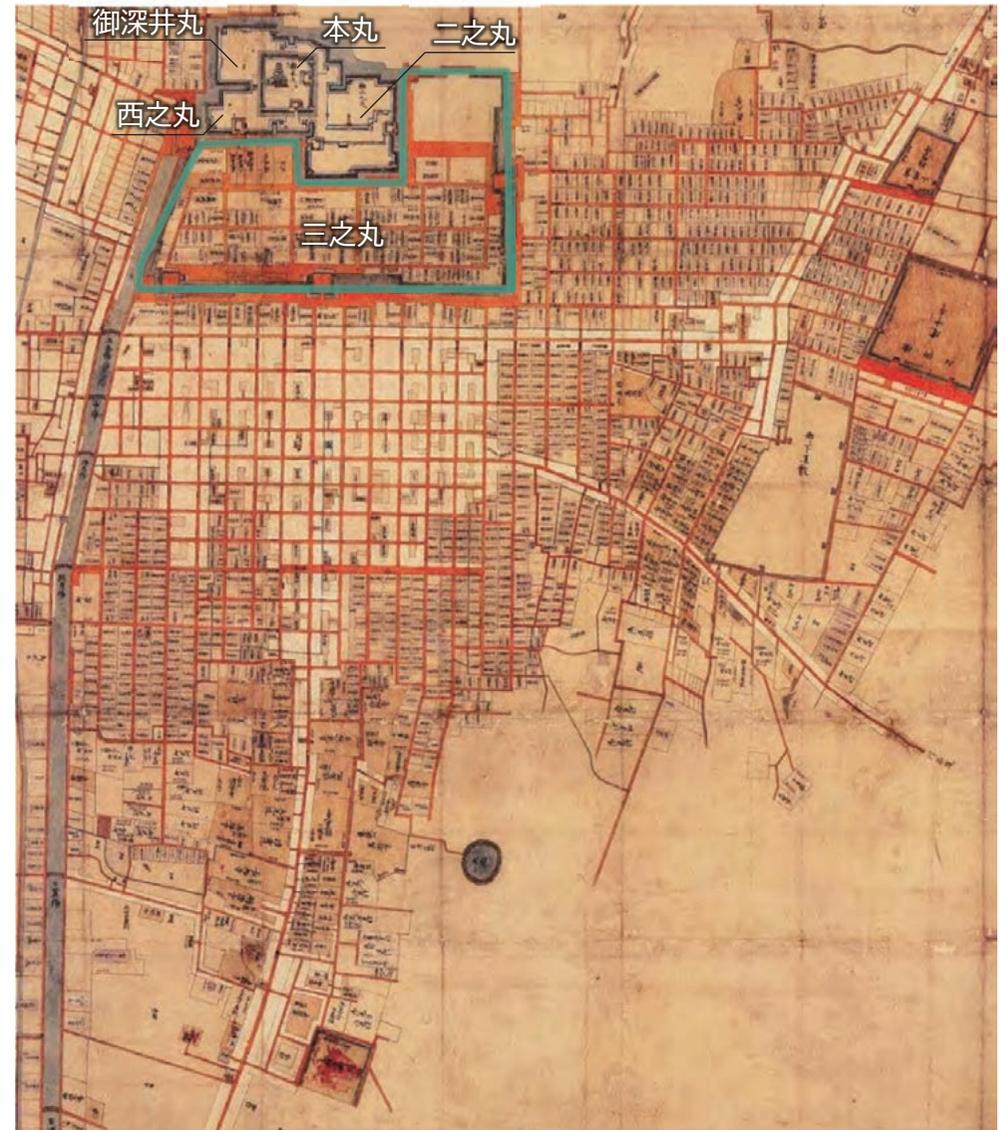
「清須越」よりもはるか昔、弥生時代中期には集落が形成されていました。

## 今につながる名古屋の骨格

### 「清須越」によるまちの形成

現在の当地区のもとが形作られたのは、江戸時代です。慶長15（1610）年、徳川家康により、名古屋城築城が開始され、尾張の中心であった清須の城下町を災害に強い堅固な当地区へ移す「清須越」が行われました。

築城にあたり、当地区は、名古屋城の本丸、二之丸を囲み、守りを固める尾張藩上級藩士の屋敷地となりました。一方、城下町の整備においては、武家地、社寺地、町人地の区画割により、まちが形成されました。



尾府名古屋図(正徳4 (1714) 年)  
〔蓬左文庫所蔵〕



## 戦後～現代 / 官庁街

## 戦災復興により官庁街に転換

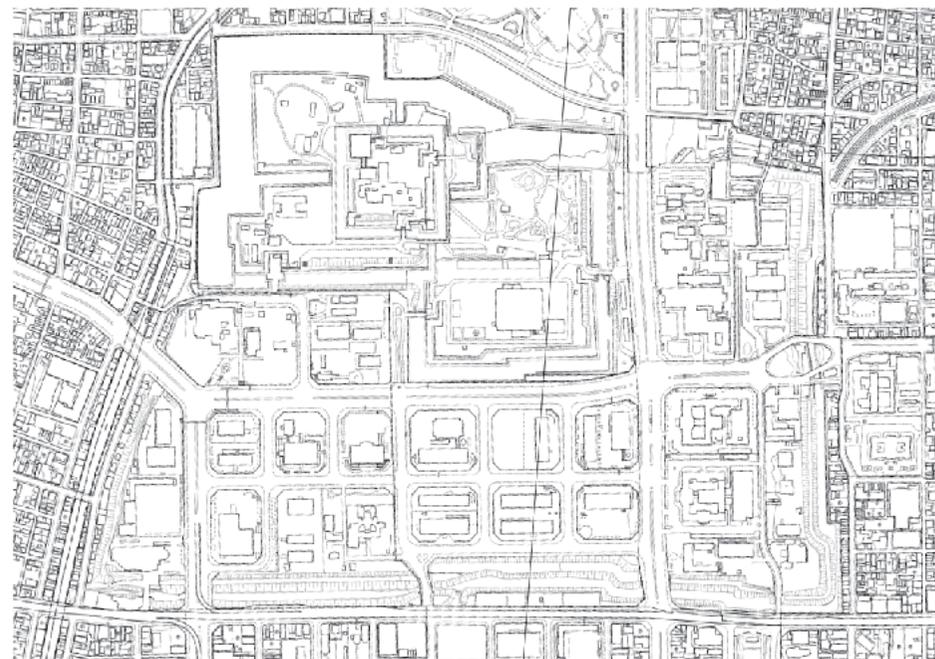
戦後、当地区はアメリカ軍に一時接收されていましたが、まもなく大蔵省に移管され、戦災地復興計画基本方針によって、官公庁施設としての活用が決まりました。

時期を前後して、名古屋城とその周辺を含む区域を都市計画公園（名城公園）として都市計画決定し、さらに風致地区の指定を行い、名古屋城周辺の保全を図ることとしていました。

その後、公園計画を縮小しつつ、都市の美観・環境の保全を図るため、郭内処理委員会による申し合わせ事項や一団地の官公庁施設の都市計画などにより、官庁街として整備する基盤を整えていきました。

現在、国内でも数少ない国、県、市の庁舎などが集積した官庁街が形成されています。

また、貴重な歴史資産である埋蔵文化財のある土地として「周知の埋蔵文化財包蔵地」となっております。



名古屋市都市計画基本図（令和2,3年）

## 名古屋城三の丸地区の歴史

## 武家屋敷地、陸軍用地、官庁街と

これまでは、各時代で 特定の利用に限られた、  
“とじられたまち” とも言える歴史を歩んできました

## 尾張徳川家

### 尾張徳川のまちづくり 宗春による繁栄

名古屋は、江戸時代を通じて、徳川御三家筆頭尾張62万石の城下町として発展を続けました。

とりわけ、元禄から享保、元文にかけての時代には第七代尾張藩主宗春のとった開放政策などによって、祭りや芸能を奨励したことから、「芸どころ名古屋」として大きく発展してきました。多くの役者や職人が名古屋に集い、祭りとともにからくり人形も発展し、それが現代のものづくり産業につながっています。



享元絵巻（江戸時代中期）〔名古屋城総合事務所所蔵〕

徳川宗春の治世、享保17年～21年頃の本町通の賑わいが描かれている。右端の広小路より左に進むに連れて南下する構図。

## 祭り

### 現代の祭りのルーツ 名古屋三大祭り

江戸時代、名古屋城下では、名古屋三大祭りと謳われた東照宮祭、三之丸天王祭、若宮祭が行われていました。東照宮と天王社は明治初期まで当地区に祀られおり、山車などで華やかな祭礼行列が、当地区や名古屋城、本町通を中心に行われ、身分を超えて参加、見物できる城下で最も賑わう行事でした。

現在の名古屋まつりで行われている「山車揃え」は、この三大祭りをルーツとしています。



名古屋まつり山車揃え

## ものづくり都市の原点

### 今につながる技術

あいち・なごやは、「木」「土」「糸」などの豊富な素材と集まった職人の高度な技術等により、自動車や航空機、工作機械、やきもの、繊維などの産業を発展させてきました。

当地区の西に流れる堀川は清須越とともに開削され、水運の役割を担ってきました。明治時代には、当地区の外堀を走っていた瀬戸電気鉄道（現在の名古屋鉄道株式会社）の“瀬戸電”は、瀬戸物を全国、世界へ届けるためのルートとして使用され、当地区を通り堀川を利用して名古屋港まで運ばれていました。

このように、ものづくりの地であるとともに、産業がはじまるまちでもあります。

## 南北の都市軸の発展

### 本町通・大津通・久屋大通

江戸時代、本町通は名古屋城から熱田へ向かう城下町の南北のメインストリートとして、大いに賑わっていました。

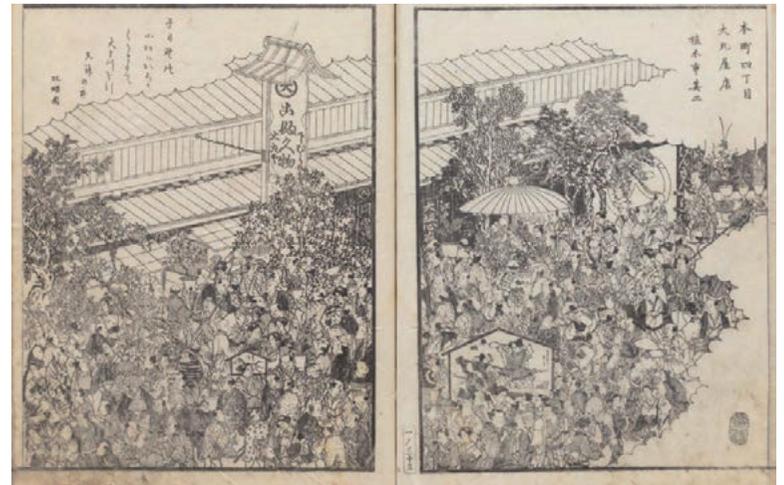
明治時代、大津通は名古屋港の開港にあわせて拡幅・延伸され、昭和8（1933）年の名古屋市役所本庁舎完成時には外堀に大津橋が架けられ、大津通が当地区を南北に縦貫しました。

戦後には、戦災復興により100m道路の久屋大通が整備され、道路であるとともに公園としての機能を果たしています。

当地区は、この本町通・大津通・久屋大通の3つの南北の都市軸とつながっています。



陶器を運ぶ堀川駅の物揚場  
〔瀬戸蔵ミュージアム提供〕



本町通四丁目（尾張名所図会）  
〔愛知県図書館所蔵〕

## 2つの重要文化財

### 市と県の本庁舎

名古屋市役所本庁舎と愛知県庁本庁舎は、官庁街形成の先鞭として戦前に建設されました。奇跡的にも戦災を免れ、「日本趣味を基調とした近世式」を今に伝える貴重な歴史景観資源となっています。平成26（2014）年にはその意匠などが評価され、重要文化財に指定されました。

完成から80年以上経つ現在でも、現役の庁舎として利用されている全国でも稀な文化財です。

また、本地区の東には、重要文化財である名古屋市市政資料館（旧名古屋控訴院・地方裁判所・区裁判所庁舎）が立地し、見応えのある歴史建築が集積しています。



名古屋市役所本庁舎



愛知県庁本庁舎

名古屋市市政資料館

## 城郭ならではの重厚感あるグリーンベルト

### お堀（三之丸外堀）

城郭と城下町を隔てる外堀は土塁と空堀で構成され、特別史跡に指定されています。

明治後期から昭和後期にかけては、瀬戸電気鉄道（現在の名古屋鉄道株式会社）の線路敷として利用されていましたが、現在は、みどり豊かで重厚なグリーンベルトを形成しています。準絶滅危惧種のヒメボタルの生息が確認されるなど、生き物の生息環境としても貴重な自然を有しています。都心の貴重なグリーンインフラとして多様な効果が期待されています。



外堀

## 立地特性

## 周辺の地域資源に恵まれた立地

当地区は城郭内に立地していることから、名古屋城天守閣に近接するとともに、名城公園（北園）にはIGアリーナが開業、世界の金シャチ横丁（仮称）基本構想による博物館の整備も進行中であり、集客力の高い魅力資源が地区内外に存在しています。

南側には、久屋大通公園のある栄地区、西側には堀川と隣接するなど、周辺地区とも連携しやすい立地となっています。

今後はSRTによって名古屋駅とのつながりが強化されます。

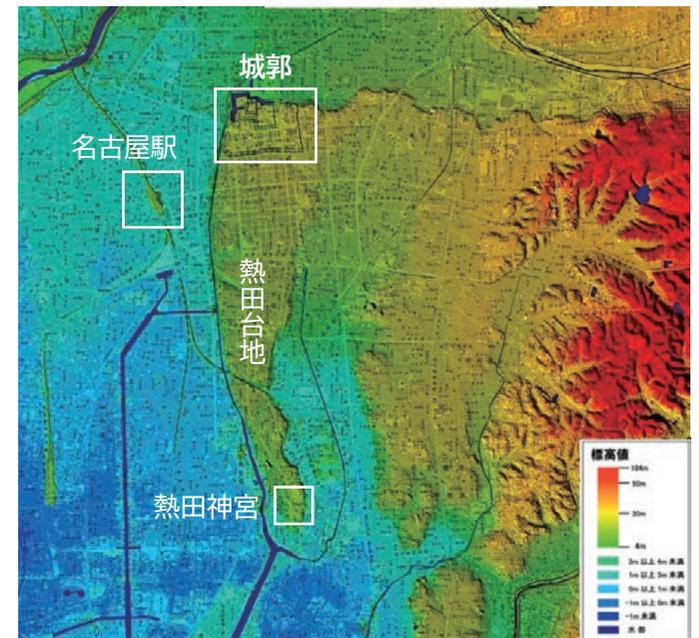
SRTとは？

都心の回遊性向上、賑わいの拡大を図るため、まちづくりと一体となった新たな路面公共交通システムのこと。

## 災害に強い堅固な土地

当地区は、縄文時代以前に海底に堆積した地層が海面の低下で地上に現れた堅固な洪積地盤である熱田台地の上に位置しており、洪水や液状化などの災害リスクが低い地区と考えられます。

また、災害発生時に中枢的な役割を担う国・県・市等の行政中枢機能が集中し、広域防災拠点としての役割が期待されています。



標高図（出典：国土地理院技術資料  
(D1-No.844・デジタル標高地形図「名古屋」) )

## 空間特性

### ゆとりある都市空間

地区内は、主に幅員50m及び30mの広幅員道路で区切られた大規模な街区で構成されており、道路率は約34%と高くなっています。同時に、郭内申し合わせ事項による建築ルールをはじめとした各種規制等によって格式高くゆとりある都市空間を形成しています。

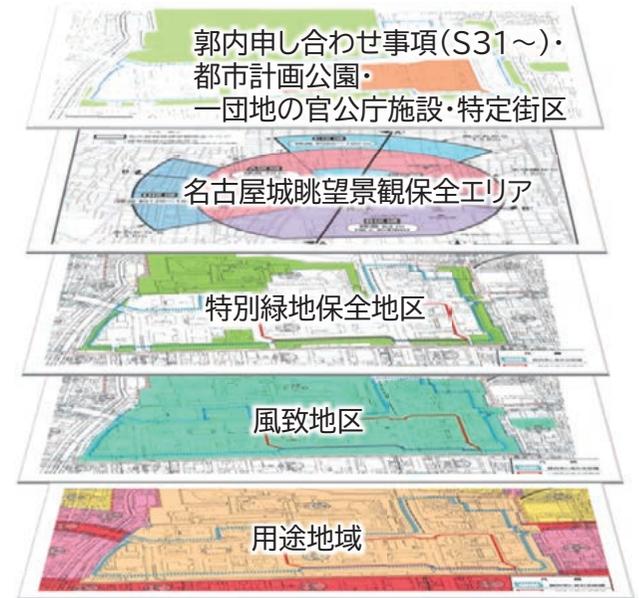
#### <主な建築ルール>

- 建蔽率35%以下
- 壁面後退15m、前庭設置
- 高さ地上約49mまで
- 住居用途は禁止

	道路率
三の丸	34.2%
全 市	18.4%

(令和4年都市計画基礎調査を基に算出)

#### 各種規制等



### 豊かなみどり

地区内には外堀、街路樹並木、都市公園・街園、敷地内の緑地など多くのみどりが整備され、みどり豊かな環境を形成しています。緑被率は全市平均よりも高く約28%です。



	緑被率
三の丸	27.8%
全 市	21.5%

(令和2年緑の現況調査を基に算出)



## 空間特性

### 視認しづらい名古屋城天守閣

地区内の豊かなみどりは強みでありつつ、一部のみどりが支障となり、シンボルである名古屋城天守閣の見える箇所が限定的となっています。

### 資産を活用しきれていない景観

重要文化財である市と県の本庁舎やお堀など、城郭内ならではの資産や歴史性を活かした景観づくりができていない状況です。

また、独自の建築ルール等により、ゆとりある都市空間が形成されていますが、夜間・休日などは道路の駐車規制により路上駐車が目立ち、景観上の課題があります。

### 歴史や文化を体感しづらい

当地区には守り受け継いでいくべき歴史や文化がありますが、上手く活かせておらず、歴史や文化を体感しづらいといった課題があります。



お堀を体感できる場所の少なさ



路上駐車の状態



樹木等により名古屋城天守閣が視認しづらい  
(本町通)



重要文化財の撮影スポットの少なさ



機能・資源特性

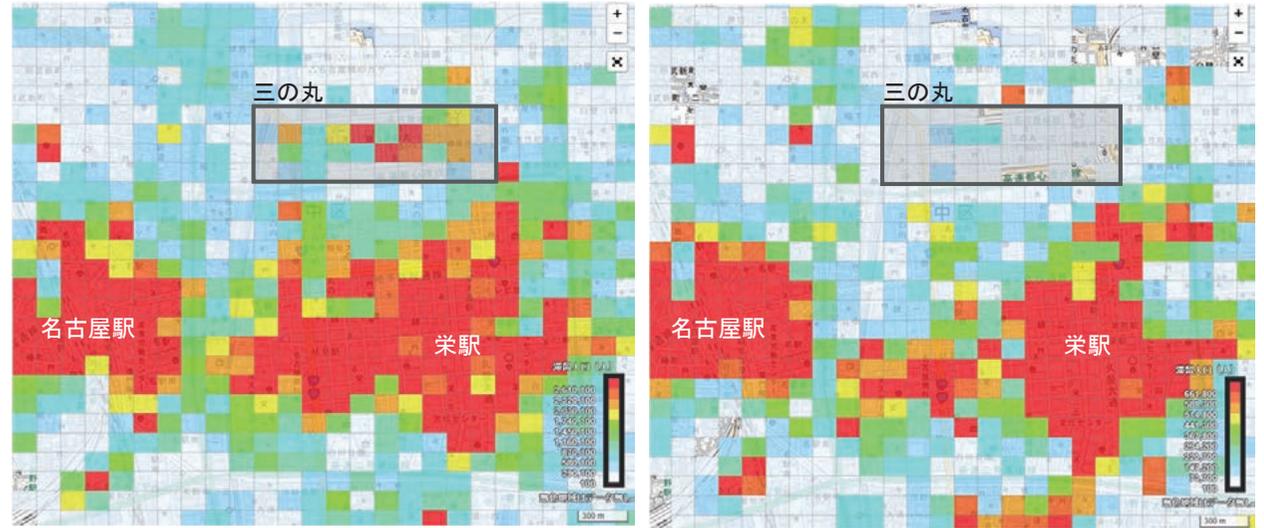
人の流入・滞留に課題

隣接する名古屋城の入場者数は年間200万人超、名古屋城駅乗車人員は年間700万人超と大勢の観光客・通勤者等が利用しています。

しかし、地区内は官庁街のため休日と平日夜の滞留人口は少ない状況にあり、観光客の流入はほとんどないと考えられます。

また、栄地区など周辺とのつながりが薄いため、回遊性を向上し国内外の来街者をいかにまちに呼び込むかが課題です。

滞留人口 (2024年)

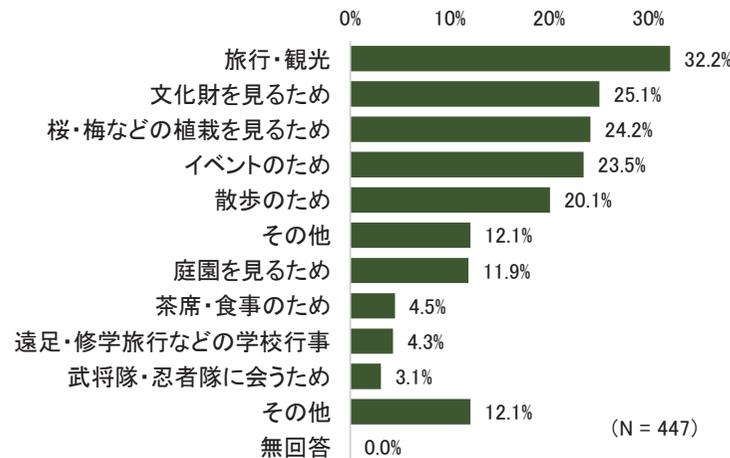


平日

休日

(出典：RESAS (滞留人口メッシュ分析))

名古屋城に行ったときの理由



(出典：令和4年度名古屋市ネット・モニターアンケート)

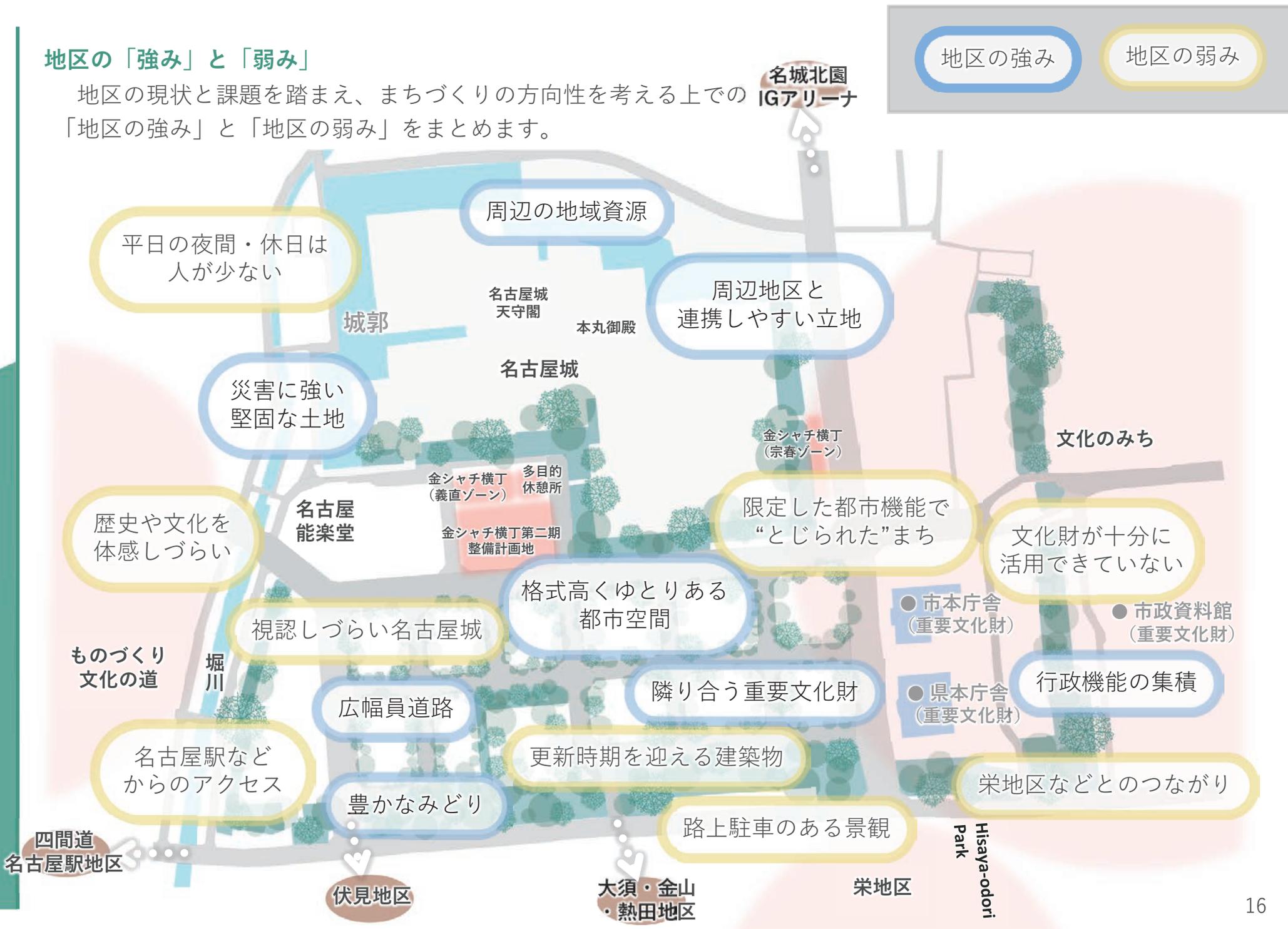
全国入城者数・外国人割合 (2023年)

順位	城名	年間入城者数	外国人比率
1	金沢城	2,584,169	
2	大阪城	2,402,157	
3	名古屋城	2,059,707	20.2%
4	二条城	1,856,673	
5	姫路城	1,479,567	30.6%
6	江戸城	1,429,692	46.8%
7	熊本城	1,353,520	18.7%
8	首里城	959,458	
9	松本城	897,424	18.0%
10	仙台城	810,000	

(出典：攻城団合同会社)

## 地区の「強み」と「弱み」

地区の現状と課題を踏まえ、まちづくりの方向性を考える上での「地区の強み」と「地区の弱み」をまとめます。



# なぜいま 三の丸でまちづくり？

- a. 三の丸を取り巻く状況
- b. 周辺から見た三の丸
- c. 三の丸への期待

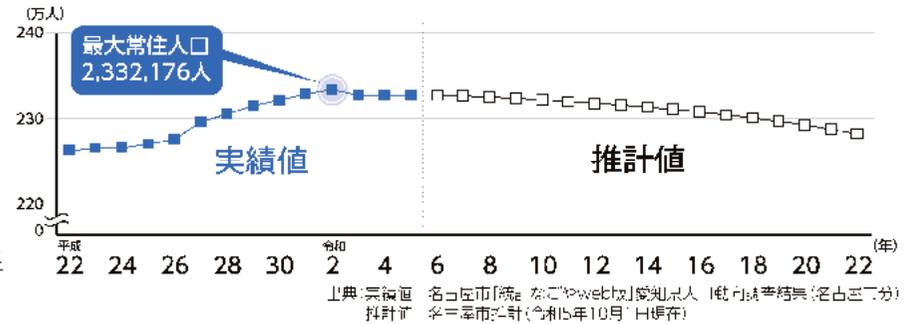


## リニア時代の名古屋

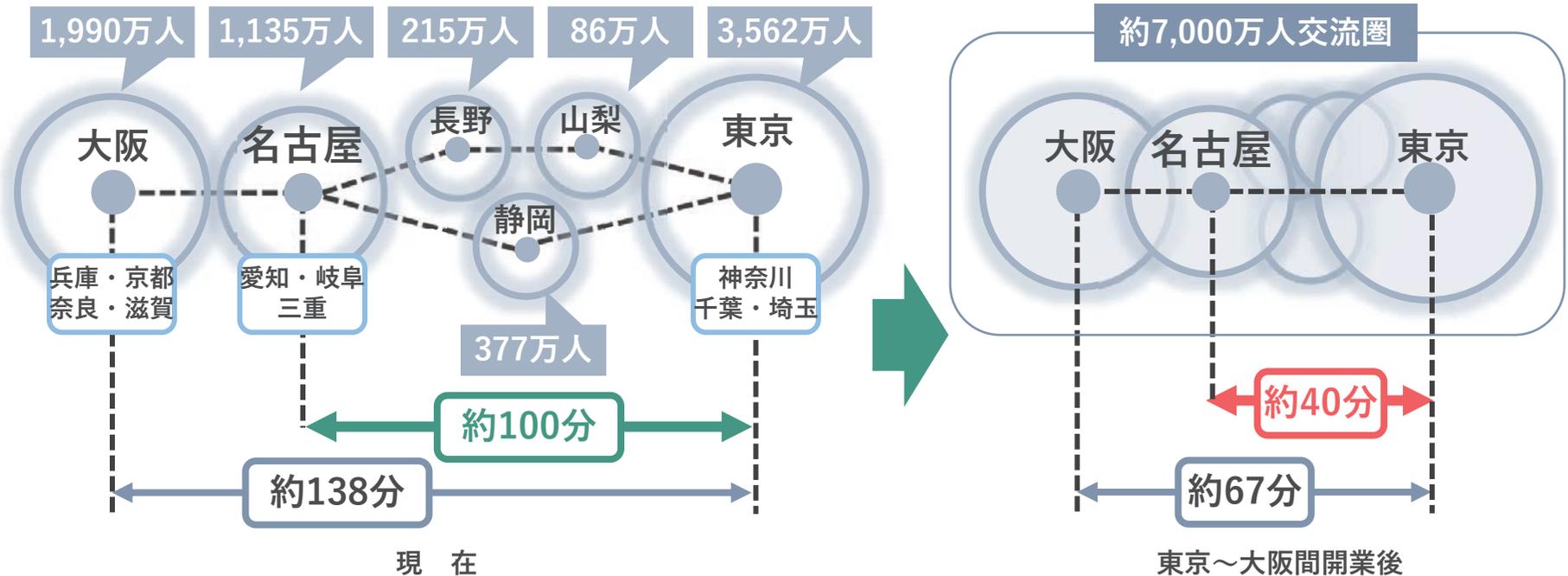
### 人口構造の変化と交流圏の拡大

名古屋市は24年連続で増加していましたが、令和3(2021)年に減少に転じています。令和5(2023)年に再び増加しましたが、近い将来、本格的な人口減少局面を迎えることが見込まれています。また、少子化・高齢化の進行に伴う人口構造の変化が生じています。

一方で、リニア中央新幹線が全線開業すれば、**世界最大の人口を有する巨大交流圏が形成され、名古屋はその中心都市**となります。本格的な人口減少局面を迎える中でも持続可能な成長を実現し、国際的な都市間競争力を一層高めることにより、**名古屋大都市圏の中核都市、成長エンジン**として、**圏域ひいては国の発展をけん引**していくことが求められています。



[リニア中央新幹線開業(東京～大阪間)による交流圏の変化]

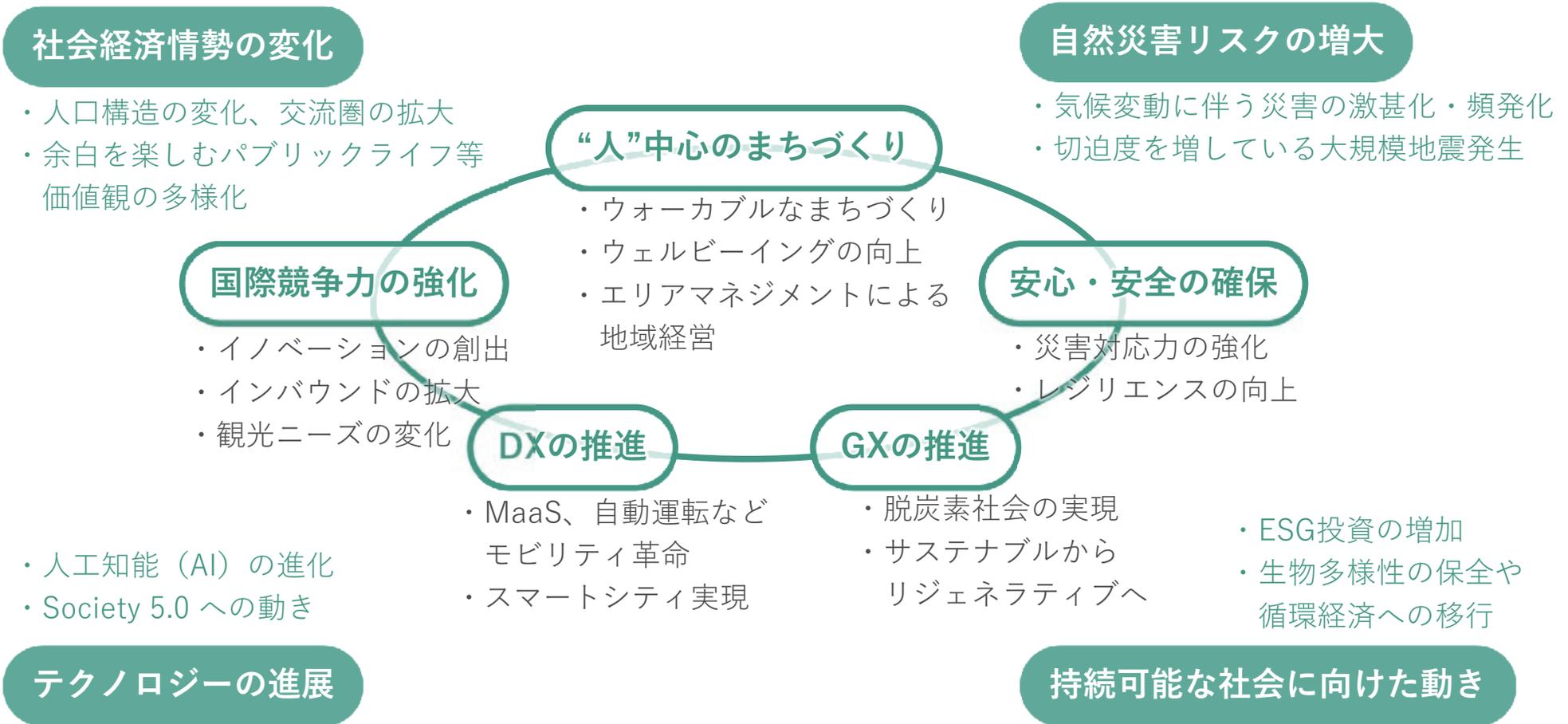


## 新たな潮流

### 時代の大きな転換点

日本全体を見渡すと、不確実性が増す国際情勢への対応や長期に及ぶ経済の停滞からの脱却、国際的な影響力の回復、さらには南海トラフ地震をはじめとする巨大な自然災害リスクへの対応など課題が山積しています。また、人々の暮らし・働き方・価値観の変化やデジタル化、脱炭素化に向けた世界的な動きの加速など、**多様化・複雑化するさまざまな課題への対応**が求められています。

今後のまちづくりにおいては、これらの**新たな動きをとらえていく**必要があります。



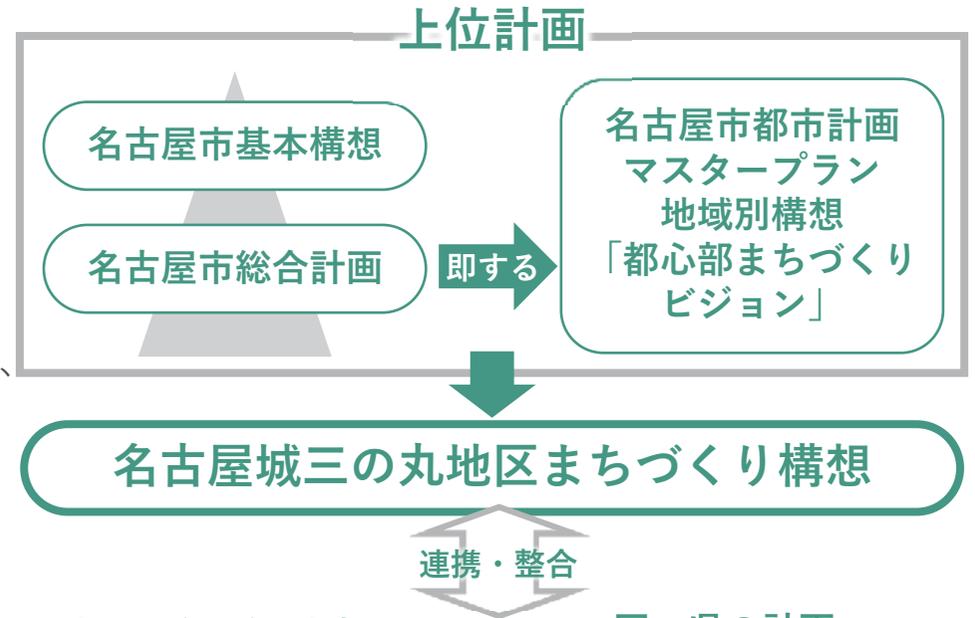
## 市の行政計画

## 上位計画との関係性

名古屋市総合計画2028においては、長期的展望に立ったまちづくりとして「文化・歴史資源が持つ価値が好循環し、成長と活力を生み続ける交流拠点都市を実現する」としており、推進する施策の柱として『世界に誇れる都心のまちづくりの推進』を掲げ、名古屋駅・栄・金山地区、また名城・三の丸地区などの拠点機能の強化や民間再開発の促進等により世界から人や企業をひきつけ、魅力と活力にあふれるまちづくりを進めることとしています。

また、名古屋市都市計画マスタープランの地域別構想「都心部まちづくりビジョン」では、当地区を含む名城地区のまちづくりの方向性を“歴史と文化に彩られた名古屋のまちづくりの礎”とすることとしています。

これらの上位計画を踏まえつつ、関連する個別計画等と連携・整合を図り、まちづくりを進めていくことが求められます。



## 関連する主な個別計画

- ・特別史跡名古屋城跡保存活用計画
- ・世界の金シャチ横丁（仮称）基本構想
- ・名城エリアにぎわい共創基本構想
- ・堀川まちづくり構想
- ・名古屋交通計画2030
- ・名古屋市みどりの基本計画2030 など

## 国・県の計画

- ・中部圏広域地方計画
- ・愛知県地域強靱化計画 など

## 名古屋市総合計画2028

## 基本方針

リニアがつなぐ巨大交流圏の中心で躍動する  
世界都市、誰もが幸せと希望を感じられる名古屋

幸せ  
ウェルビーイング

×

多様性  
ダイバーシティ

×

共創  
オープン  
イノベーション

## めざす都市像

1. 人権が尊重され、誰もがいきいきと暮らし、活躍できる都市
2. 安心して子育てができ、子どもや若者が豊かに育つ都市
3. 人が支え合い、災害に強く安心・安全に暮らせる都市
4. 快適な都市環境と自然が調和した都市
5. 魅力と活力にあふれ、世界から人や企業をひきつける、開かれた都市

めざす都市像を実現するために  
推進する施策の事業

事業423

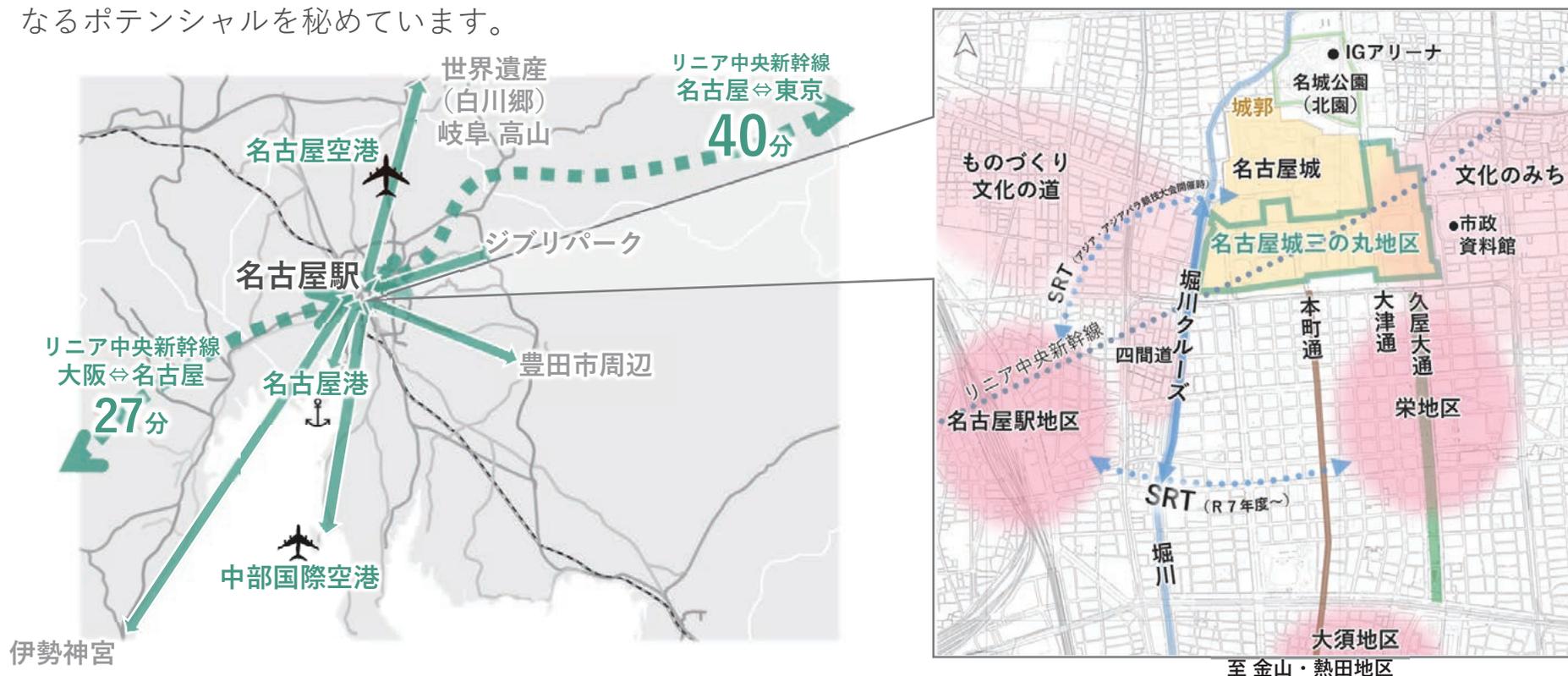
『三の丸地区まちづくりの推進』

## 広域的な視点から見た三の丸

### 名古屋城三の丸地区と周辺地区との関係

名古屋は古くから交通の要衝として発展を続けてきました。現在では陸路、海路、空路が整備され、特に1日で100万人近くの人が行き来する巨大ターミナル「名古屋駅」には複数の鉄道路線、遠距離バスが直結。わずか30分で世界につながる中部国際空港にアクセスでき、リニア時代には、名古屋—東京間は約40分、名古屋—大阪間は約30分の短時間での移動が可能になります。

当地区を含む名古屋の都心部においては、名古屋駅地区や栄地区を中心に魅力向上が図られています。また、周辺には歴史を感じられる名古屋城、文化のみち、ものづくり文化の道、大須地区が立地しています。歴史・文化など地域資源に根差した縦軸のまちづくりとして、当地区・金山地区・熱田神宮周辺のまちづくりが進められています。当地区は、このような拠点とともに**本市や名古屋大都市圏の持続的な成長をけん引する重要な拠点**となるポテンシャルを秘めています。



## なぜいま三の丸？

### 新たな潮流への対応と地区への期待の声

当地区における、都市の美観や環境の保全を図りつつ**官庁街を形成する**という一定の目的は達成されました。一方で、人口構造の変化や交流圏の拡大、さまざまな潮流の変化等を踏まえると、**まちの変革**が求められます。

また、今から30年後には地区内の半数近くの建物が築80年以上となることにより、今後、**建替えや機能更新の時期**を迎えることが想定されます。

まちづくりの観点では、戦略的に都市を変えていくために、**小さなアクションから長期的変化（政策）に変えていく**という考え方があります。いずれ訪れる建替えや機能更新の時期をそれぞれの地権者が単に迎えるのではなく、このタイミングをチャンスと捉え、**あいち・なごやの成長・発展に向けて目指すまちを描き、一丸となってまちづくりをスタート**することが有効です。

さらに、学識経験者などから構成される名古屋三の丸ルネサンス期成会より「三の丸再整備からはじまる城下町再生：三の丸ルネサンスの推進」として提言（令和3年1月）が出され、また、名古屋商工会議所と中部経済連合会により「東京一極集中の是正に向けた地域の機能強化と魅力向上に関する提言」として共同提言（令和3年1月）がなされるなど、当地区への期待の声があり、**まちづくりの機運が高まりつつあります**。

まさに今、新たな潮流を踏まえ、当地区の強みを活かしつつ、**当地区のまちづくりをあいち・なごやの飛躍へとつなげていくまちの転換期**を迎えています。

## 三の丸の活用実験

## 三の丸チャレンジ（社会実験）

当地区の特徴であるゆとりある公共空間や重要文化財である名古屋市役所本庁舎を活かしながら、休日は人の滞留が少ないという現状を変え、賑わいのあるまちづくりに挑戦する「三の丸チャレンジ」を実施しました。（令和6年11月2日、3日）

「三の丸チャレンジ」では、休日は使われていない市役所本庁舎の前庭（駐車場）を活用し、ストリートピアノやワークショップを行いました。

また、道路空間を一部通行止めにして芝生を敷くなど広場風にし、そこに近隣の大学生が制作した屋台やキッチンカーを設置することで賑わい創出を図りました。

## 〈実施場所〉



【A】名古屋市役所本庁舎の前庭（駐車場（休日））



【B】道路空間（休日）



ストリートピアノ  
（前庭の活用）



ワークショップ  
（前庭の活用）



キッチンカー  
（道路空間の活用）



メディ屋台  
（道路空間の広場化）

## 三の丸の活用実験

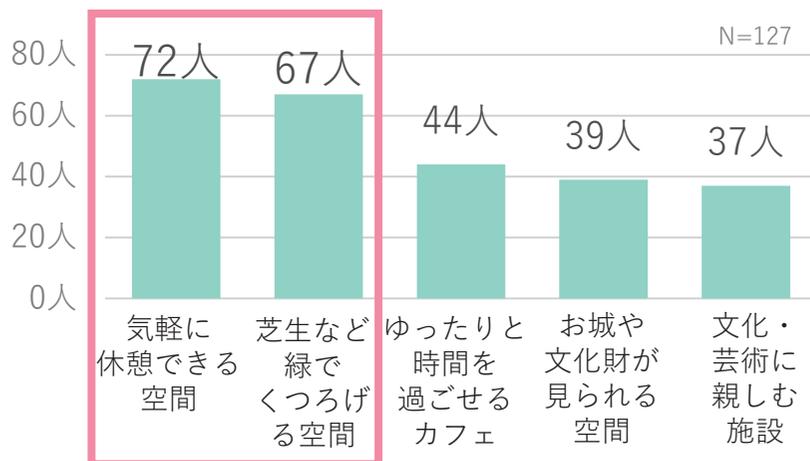
### 憩える空間への変化に高評価

三の丸チャレンジ来訪者を対象にアンケート調査を実施し、当地区に求める機能や空間に対するニーズを把握しました。

「官庁街以外の機能や空間としてほしいものは」の間に、回答者の半数以上が「休憩できる空間」、「くつろげる空間」を挙げました。その他にも、「お城や文化財が見られる空間」など全体で3割以上の回答がありました。

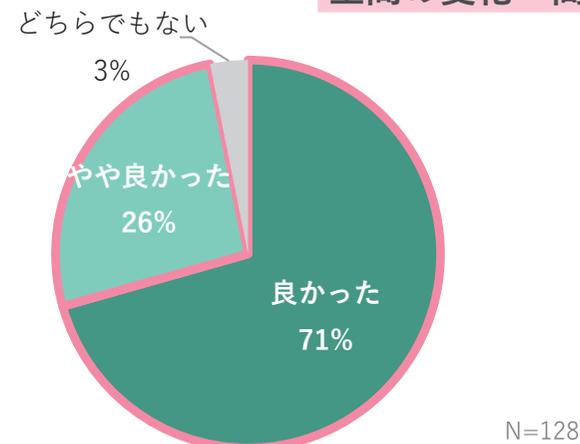
これらの結果から、当地区には城や文化財が見られ、憩える空間が求められていると考えられます。また、空間の変化に対しては、ほとんどの人が高評価でした。

#### 憩える空間が高評価



【問】 官庁街以外の機能や空間としてほしいもの

#### 空間の変化へ高評価



【問】 今回の社会実験で空間を変えたことによる評価

# 三の丸のまちづくりとは

- a. まちづくりの意義
- b. まちづくりの基本的な考え方
- c. まちづくりの理念



## まちづくりの意義

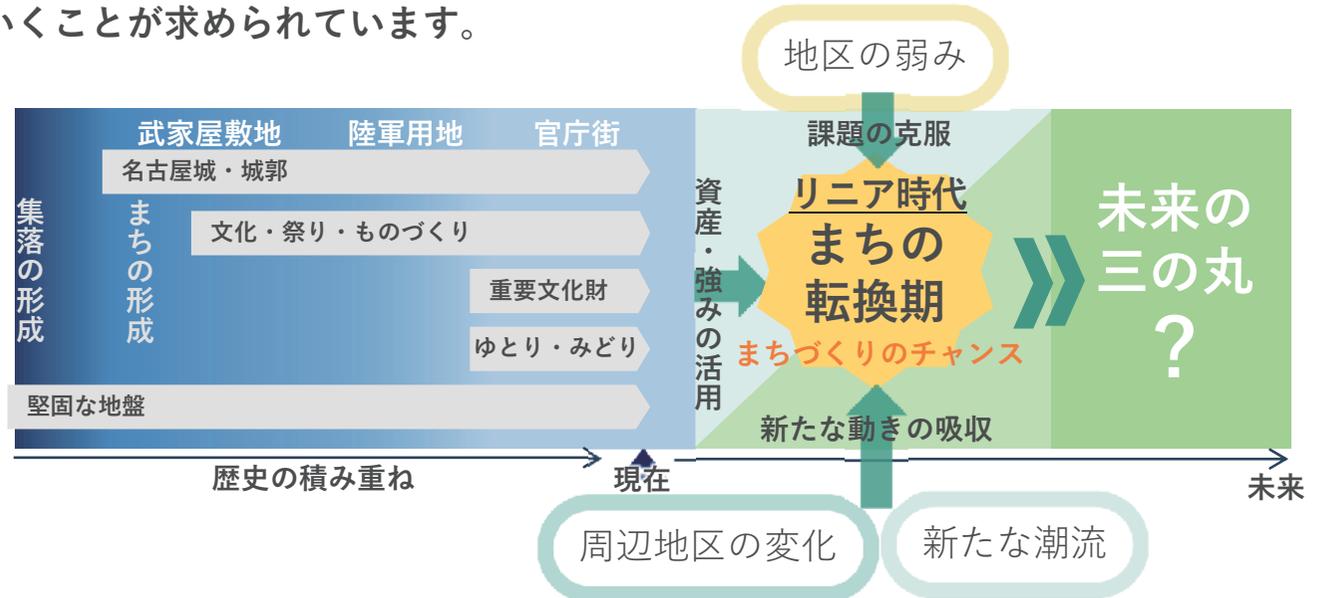
民間再開発などにより魅力向上が進められる名古屋駅地区や栄地区と同じ都心部に立地し、世界を魅了する歴史文化をもつ名古屋城と再生した久屋大通公園の間に位置する名古屋城三の丸地区。

これまで触れてきたように、当地区は各時代でダイナミックに変化しつつも、特定の利用に限定される歴史を歩んできました。一方で、長い歴史があるからこそ、現代のものづくりや文化、祭りにつながるルーツに深く関わるとともに、城郭ならではのお堀や重要文化財など、**過去から受け継いだ守るべき資産**を多数有しています。また、災害に強い堅固な地盤やゆとり・みどりといった地区内外の資産、周辺との関係は強みであり、**未来のまちへ活かしていきたい要素**です。

社会経済・環境の潮流の変貌、リニア時代を迎えるという**大きな転換点である今**、周辺地区の変化を踏まえて、**未来に向けたまちづくりを進めること**で、様々な期待に応えていくことが求められます。さらに、**今後更新時期を迎える建物が多いという機会**を捉えれば、強みを未来に活かしつつ、抱える課題の克服も同時に実現することができるように、**まちとして大きな変化を期待**できます。

三の丸にしかない歴史を受け継ぎ、三の丸だからこそ期待される未来に応えるためには、**今まさに地区全体で新しいまちづくりに向けて動いていくことが求められています**。

三の丸が「**未来の三の丸**」へと**進化、変化**を遂げることは、周辺に大きなプラス効果をもたらし、**あいち・なごやの新しい未来を切りひらく**ことが可能です。こうした**ポテンシャルを秘めた三の丸**だからこそ、まちづくりに取り組む**意義**があります。



## まちづくりの基本的な考え方

これまでの“官庁街”という役割から、中部、愛知、名古屋の飛躍やシビックプライドの醸成、そして新たな時代にあったまちにアップデートするため、行政間や民間との連携強化を図り、率先した社会課題解決、今ある魅力の向上や情報を発信する「**進化**」とともに、経済活動、観光、交流、交通等の機能を新たに導入する「**変化**」により、空間の質の向上や必要となる機能の強化を図って、まちをひらき、人口減少局面を迎える未来においても、成長と活力を生み続ける地区を目指します。

### 今あるものを伸ばす 『進化』



国・県・市の連携はもとより、民間との連携強化を図り、率先した社会課題解決や魅力向上、情報発信を行い、人口減少局面を迎える中でも成長と活力を生み続ける

### 今ないものを付加する 『変化』



城郭内であることを活かして、経済活動や観光、交流、交通等の機能を新たに導入し、周辺地区とのつながりや都市の奥行と多様性を創出する

## まちづくりの理念

これから新しくまちづくりをはじめていく名古屋城三の丸地区においては、関係者などが一体となって同じベクトルを向いて取り組めるように、まちづくりの理念を定めます。

# 歴史を魅せ 未来を見せる 名古屋城三の丸

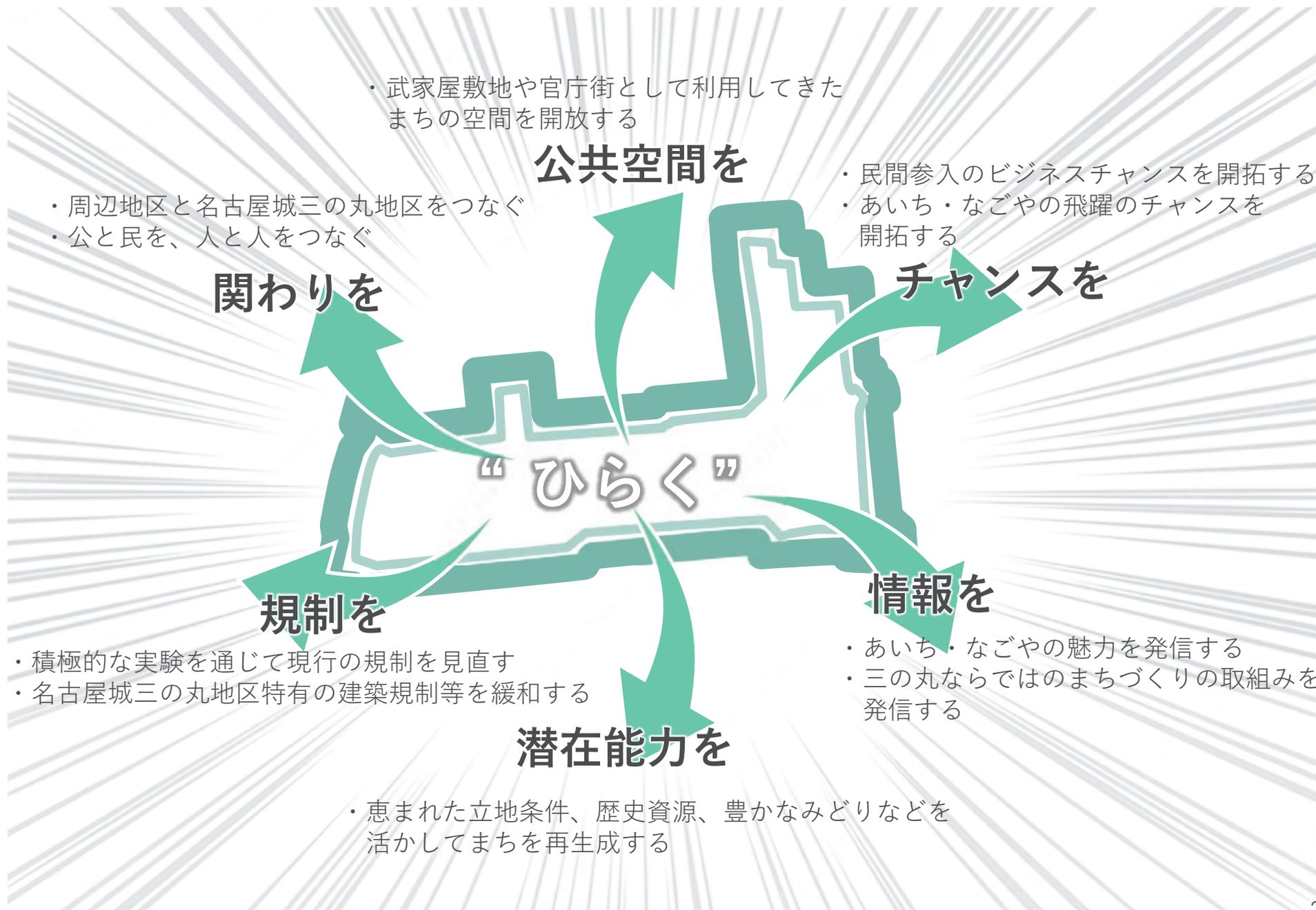
— 進化と変化で官庁街を“ひらく” —

## 理念に込める想い

リニア時代における巨大交流圏の中心都市として、圏域や国の成長をけん引し、魅力と活力にあふれ、市民の誇りや愛着が高まるまちづくりを進めていくため

- 先人から受継いだ世界に誇る歴史・文化や豊かな自然環境などの資源を活かし、世界の人を魅了します。
- 世界を先導し未来を見せるまちづくりを進め、新たな交流や活動が生まれ、地区で働く人、訪れる人が躍動するまちを目指します。

## 官庁街を“ひらく”とは



# めざすまち

- a. まちづくりの基本方針
- b. 将来イメージ



## めざすまちの方向性

これまでの内容を踏まえ、めざすまちの方向性を導き出します。

強み	弱み	新たな潮流	期待	めざすまちの方向性
お堀・グリーンベルト、生き物		脱炭素社会	民間投資	環境の魅力、価値の再生
豊かなみどり		リジェネラティブ		
災害に強い堅固な土地		災害対応力の強化	広域防災の司令機能、首都圏のバックアップ	都市の活動を 守り支える
行政機能が集積		レジリエンスの向上		
限定的な都市機能		ウェルビーイングの向上	高次都市機能集積と多様な交流	人や企業を惹きつける、 価値を発信
周辺地区と連携しやすい立地		イノベーションの創出	リニア交流圏の中心で躍動する都心	
広幅員道路による整った街区				
交通アクセス・周辺とのつながり		モビリティ革命	都心全体での賑わい創出と回遊	スマート、回遊性が高い
周辺に豊富な集客資源		スマートシティ		
人の流入・滞留の少なさ		ウォーカブルなまちづくり	スマート & ウォーカブル	おもてなし、居心地が良い
文化・祭り・ものづくりのルーツ				
本物の歴史（城郭、重要文化財）				
歴史や文化を体感しづらい			歴史・文化を活かしたまちづくり・観光交流	あいち・なごやらしさを体感
名古屋城天守閣の視認性の悪さ				
資産を活用しきれない景観		インバウンドの拡大 観光ニーズの変化		
格式高くゆとりのある都市空間			縦軸のまちづくり （歴史感じる本町通）	三の丸ならではの景観
建物更新時期を迎える多数の建物			県市本庁舎の活用	

先進性で  
世界をリード

人が中心  
人を惹きつける

三の丸  
アイデンティティ

## まちづくりの基本方針とめざすまち



## めざすまち1

環境の魅力を活かした  
価値を再生するまち

## めざすまち2

都市の活動を守り支える  
強くしなやかなまち



## めざすまち3

国内外から人や企業を惹きつける、  
卓越した価値を発信するまち

## めざすまち4

スマートで快適に移動できるまち

## めざすまち5

おもてなしが沁みわたる、  
居心地の良いまち



## めざすまち6

あいち・なごやらしさを  
体感できるまち

## めざすまち7

三の丸ならではの  
景観のあるまち

歴史を魅せ 未来を見せる 名古屋城三の丸

官庁街をひらき、多様な主体でつくり・育てる



## めざすまち1

## 環境の魅力を活かした価値を再生するまち

## 将来イメージ

- 環境と共生したまちの新たなモデルとなる、先進的な技術やシステム、考え方などを取り入れ、脱炭素化を実現しています
- 名古屋城の外堀や街路樹など、豊かで生物多様性にも配慮したみどりの再生により、自然とふれあえるまちとなっています
- みどりの多面的な効果によって、高い創造性と幸福感を得られるまちとなっています





## めざすまち2

## 都市の活動を守り支える強くしなやかなまち

## 将来イメージ

- 多様な主体が連携することで、建物やインフラ、コミュニティなどハード・ソフト両面で高い防災性能を有したまちになっています
- 高い業務継続性（BCD）を魅力に、国内外から人や企業などが集まっています
- 災害時には、地区内の行政機関が連携し、広域防災機能が発揮されます





## めざすまち3

## 国内外から人や企業を惹きつける、卓越した価値を発信するまち

## 将来イメージ

- 新たな機能誘導の余地を創出し、国内外の企業等の進出先や官民の連携拠点として、ビジネス交流やイノベーションが生まれやすい環境が整っています
- 三の丸にしかないみどりや景観、ゆとりある環境などを活かすことで、エリアとしてブランド化され、三の丸で過ごしたり、働くことがステイタスとなり、誰もが働きやすく、働きたいウェルビーイングなまちとなっています





## めざすまち4

## スマートで快適に移動できるまち

## 将来イメージ

- 名古屋駅や栄、金山、熱田など周辺地区から、スムーズにアクセスできる交通ネットワークとインフラが整っています
- 最先端技術の活用により、多様なモビリティがシームレスにつながり、誰もが快適に移動ができます
- 環境にやさしく、歩行者中心の移動環境となっています

パーティポート（電動垂直離着陸機の離着陸場）

環境にやさしい交通システムの導入

DXの推進による回遊性向上（MaaSなど）

堀川（舟運）との連携

自動車流入の抑制と  
歩行者優先（専用）エリアの導入

多様な交通の結節点（モビリティハブ）

中速モビリティ（GSM）など  
様々なモビリティの自動運行

想像するめざすまちの一例



めざすまち5

## おもてなしが沁みわたる、居心地の良いまち

### 将来イメージ

- 訪れる人や働く人が、まち歩きや憩い、出会い・交流など多様な楽しみを味わいながら、ゆっくり過ごせる、癒される、笑顔になれるウォーカブルなまちになっています
- 統一性のある案内・地区の歴史や文化の発信等により、初めて来訪した人が安心して滞在でき、親しみをもてるまちになっています

滞留したくなる居心地の良い広場

統一された地区の情報発信・案内

豊かな自然環境による  
涼しさの体感

建物の低層部などへの賑わい施設導入など  
ウォーカブルな空間

歩行者優先の安全・快適、  
みどり豊かな歩行空間

想像するめざすまちの一例



めざすまち6

## あいち・なごやらしさを体感できるまち

## 将来イメージ

- 愛知県内の様々な文化・地域資源を幅広く体感できるコンテンツが集結し、あいち・なごやを知る・学ぶ、深めることができます
- まちに滞在する付加価値や特別感を高め、世界中から訪れたいくなる、ブランド力の高いまちとなっています
- 「らしさ」を体感する場と機会を増やすことでシビックプライドや三の丸への愛着が醸成されています

ゆとりある空間（道路、前庭、外堀等）を活かし、  
エリア一丸となったイベントの開催



ひらかれた三の丸の象徴である  
文化イベント名古屋三大祭りの復活



三の丸ファンの育成



三英傑や尾張徳川家の武家文化、  
三の丸遺跡などの歴史を学ぶ



あいち・なごやの食文化、  
ものづくり文化、  
伝統文化などを楽しめる



県・市本庁舎重要文化財の活用により  
歴史的建造物を体感できる場を創出



めざすまち7

## 三の丸ならではの景観のあるまち

## 将来イメージ

- 新しい建物と重要文化財や名古屋城の歴史的建造物が調和し、風格ある街並みを感じることができます
- 街並みに溶け込んで、日常的に様々なアクティビティが行われ、活気や賑わい、ふれあいなど多種多様な人々の活動風景を見ることができます
- 城郭内の三の丸ならではの景観・風景が多くの人に響く魅力となっています

名古屋城や重要文化財、ケヤキ並木などを眺められるビューポイント（地上、屋上、展望台等）

公共空間の使いこなし・有効活用によるアクティビティの創出



まちの演出（アートや花の展示、ライトアップ、イルミネーション等）



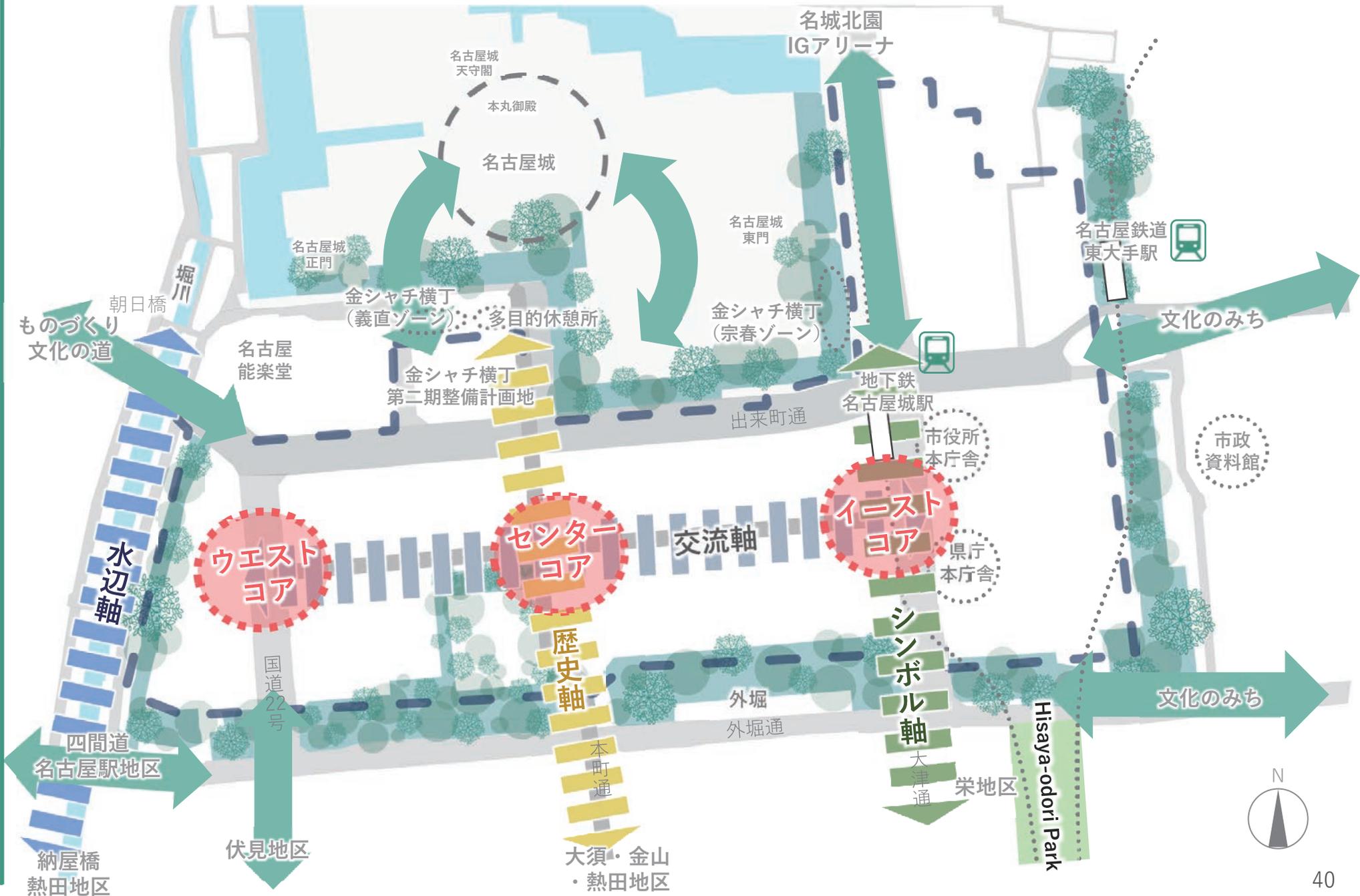
建替え時の建物の意匠や通りの景観などのまちづくりルール（歴史と近代的なデザインの調和など）



三の丸のブランド化

[写真] A 姫路駅キャッスルビュー（イメージ）：姫路市提供 B 名古屋城：（公財）名古屋観光コンベンションビューロー提供 C 丸の内仲通り（イメージ）  
D 出雲大社表参道「神門通り」（イメージ）：小野寺康都市設計事務所提供 E 金シャチ横丁義直ゾーン（イメージ）：日本プロパティマネジメント(株)提供  
F 日本橋室町（イメージ）

### 地区の「コア」と「軸」



現行の土地利用や地域資源、周辺地区との連携等を踏まえ、地区のまちづくりを戦略的に推進するため、人が集まり、交流を生み出す「コア」と「軸」を設定します。まちづくりを推進しながら深度化を図っていきます。

		空間形成等の考え方
コア	イーストコア	重要文化財の活用などにより、地区の顔として中心的な賑わいを創出・交通結節機能の強化を図る
	センターコア	名城公園などの豊かなみどりを活かした地区の中心となる顔を形成
	ウェストコア	名古屋城の交通結節点に近い立地特性を活かした地区の西側のゲートを形成
軸	交流軸 	<ul style="list-style-type: none"> <li>沿道低層階に賑わい施設を誘導し、道路空間と一体となった賑わいを先導して形成し、地区全体への波及を図る</li> <li>ゾーン間を連携し、移動の円滑化を推進する地区のメインストリート</li> <li>みどり豊かな風格ある景観を創出</li> </ul>
	歴史軸 	<ul style="list-style-type: none"> <li>本町通につながる歴史性を踏まえた空間の形成</li> <li>城や沿道の歴史的資源等と調和した空間の形成</li> </ul>
	シンボル軸 	<ul style="list-style-type: none"> <li>名古屋城と栄地区との賑わいの連続性の確保に向け、重要文化財を活かした景観づくりにより、地区を印象づける通りの形成</li> <li>久屋大通・大津通からつながる、みどり豊かな移動空間を形成</li> <li>Hisaya-odori Parkと連続した公園的な雰囲気を出し、楽しみながら移動</li> </ul>
	水辺軸 	<ul style="list-style-type: none"> <li>堀川の水上交通など水面利用により、熱田や納屋橋などにつながる水上の歴史軸</li> <li>外堀や朝日橋など水面との接点を増設し、人を引き込む</li> </ul>
	周辺との連携軸 	<ul style="list-style-type: none"> <li>当地区と周辺地区等との連携を高め、交流を促進</li> </ul>

## ひらいた三の丸のとある一日（平日）

一三の丸で働く子育て世代の会社員一

8:00 まちづくり協議会の朝活に参加

10:00 名古屋城が見える会議室で打合せ



12:00 緑陰の下のオープンカフェでランチ

16:00 保育所へ子供を迎えに行く

16:30 いつもの広場で子供と遊んでリフレッシュ



一三の丸に通う学生起業家一

13:30 学校終わりに超小型モビリティで三の丸へ移動

14:30 先進技術の実証実験場所を下見



16:00 グローバル企業や行政の人々とイノベーション施設でディスカッションしてアイデアが閃く



19:00 堀川の横を夜風を感じながら散歩

## ひらいた三の丸のとある一日（休日）

— 近隣から友達と三の丸に遊びに来た人 —

9:30 重要文化財の前で友達と待ち合わせ



10:00 エリアの歴史をバーチャル空間で体感

13:00 なごやめしを食べた後、みどりや風を感じながらショッピング



17:00 広場のパブリックビューイングで盛り上がる

— 遠方から三の丸に遊びに来た観光客 —

10:30 リニアで名古屋に到着後、SRTで三の丸へ移動

12:30 名古屋城を見学後、まち歩き  
近代と歴史が調和した街並みを体感

15:30 あいち・なごやの食やものづくり文化を体験



19:30 ライトアップされた夜の三の丸を散策

20:30 名古屋城が間近に見えるホテルに宿泊



# めざすまちの実現に向けて

- a. まちづくりの進め方
- b. まちづくりの組織体制
- c. ロードマップ

05

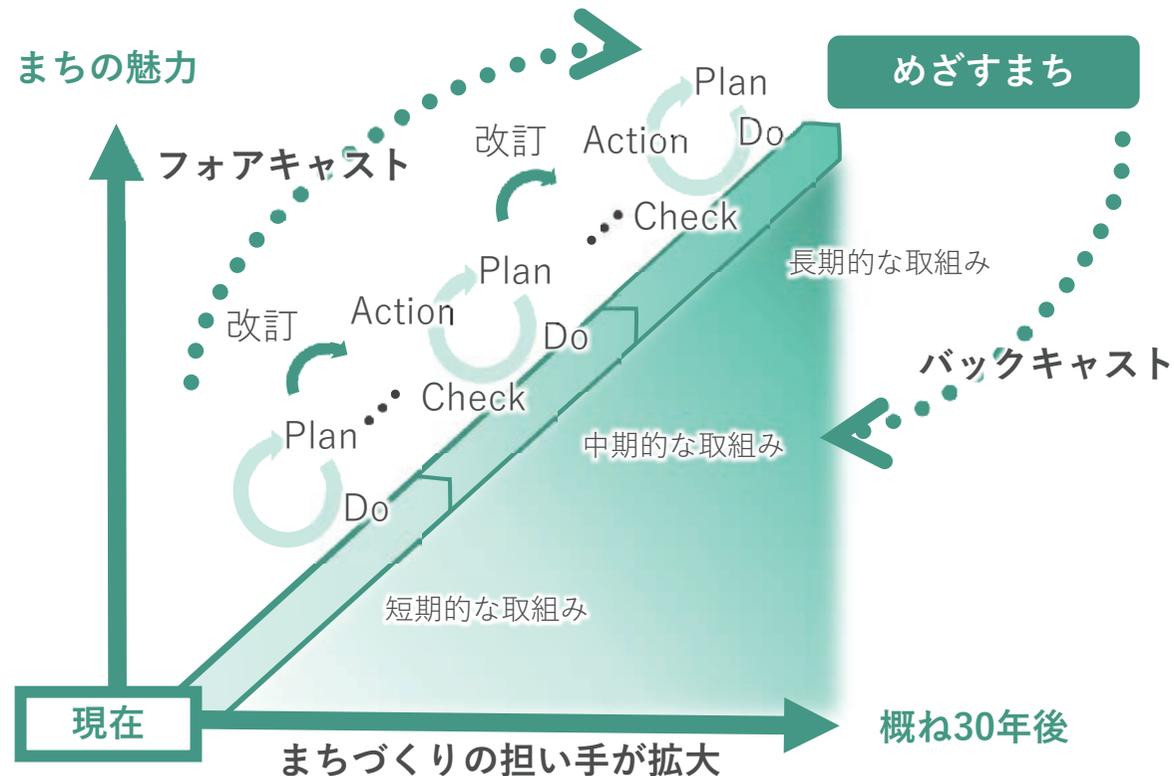
## まちづくりの進め方

## 段階的なまちづくりの推進

まちづくり構想は、地区の特性や策定時点における技術革新・社会経済情勢の変化等を念頭に置きながら、概ね30年後のめざすまちの内容を示すものであり、実現に向けて**段階的にまちづくりを推進していきます**。

推進していく際には、まちづくりの進捗やニーズ・課題、技術革新に応じて、**適時適切に対応していく柔軟性も重要**です。このため、まちづくりの内容を見直す必要が生じたときは、計画内容を見直ししていくことが求められます。その際、PDCAサイクル（Plan（計画）、Do（実行）、Check（評価）、Action（見直し））を回して、計画内容を改訂（バージョンアップ）していきます。

まちづくりに関わる関係者が**協働し、横断的に連携しながら公民共創のまちづくり**を当地区で実現していくため、**計画内容を適宜具体化・更新**していきながら、**機動的にまちづくりを進めていきます**。



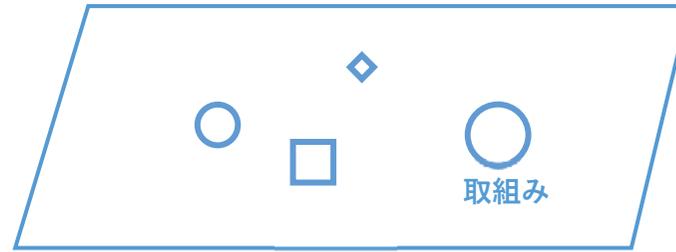
## まちづくりの進め方

国縣市などの行政機関だけではなく、多様な主体を増やしながらか段階的にまちづくりを進めていきます。

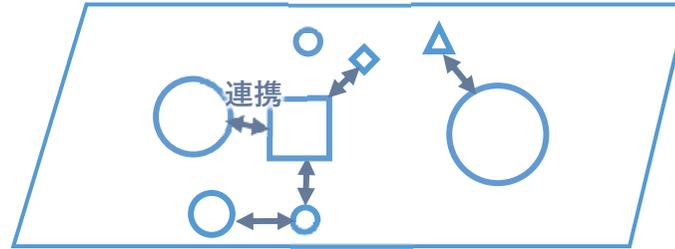
## Step1 できるところ・小さい取組みからはじめる



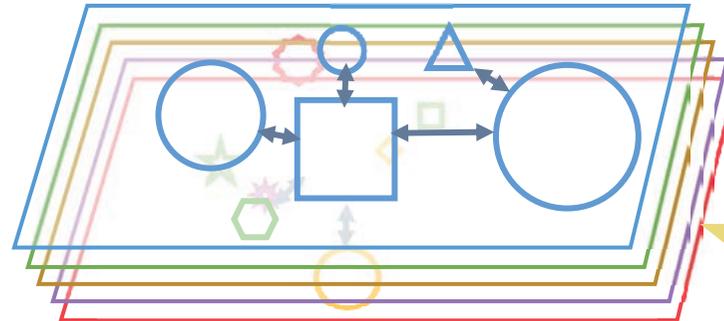
毎月30日の清掃活動の様子



⋮

Step2 取組みをつなげて  
少しずつ大きくしていく

⋮

Step3 まちに関わる主体を増やし、  
まちの機能を創出し、  
まちづくりを推進していく

(注) レイヤー：まちづくりの主体

〈主体〉 〈まちの機能〉

地権者

行政

多様な主体

賑わい・交流

+

民間  
市民  
学生  
専門家

+

観光  
経済  
文化まちづくり  
コーディネーター

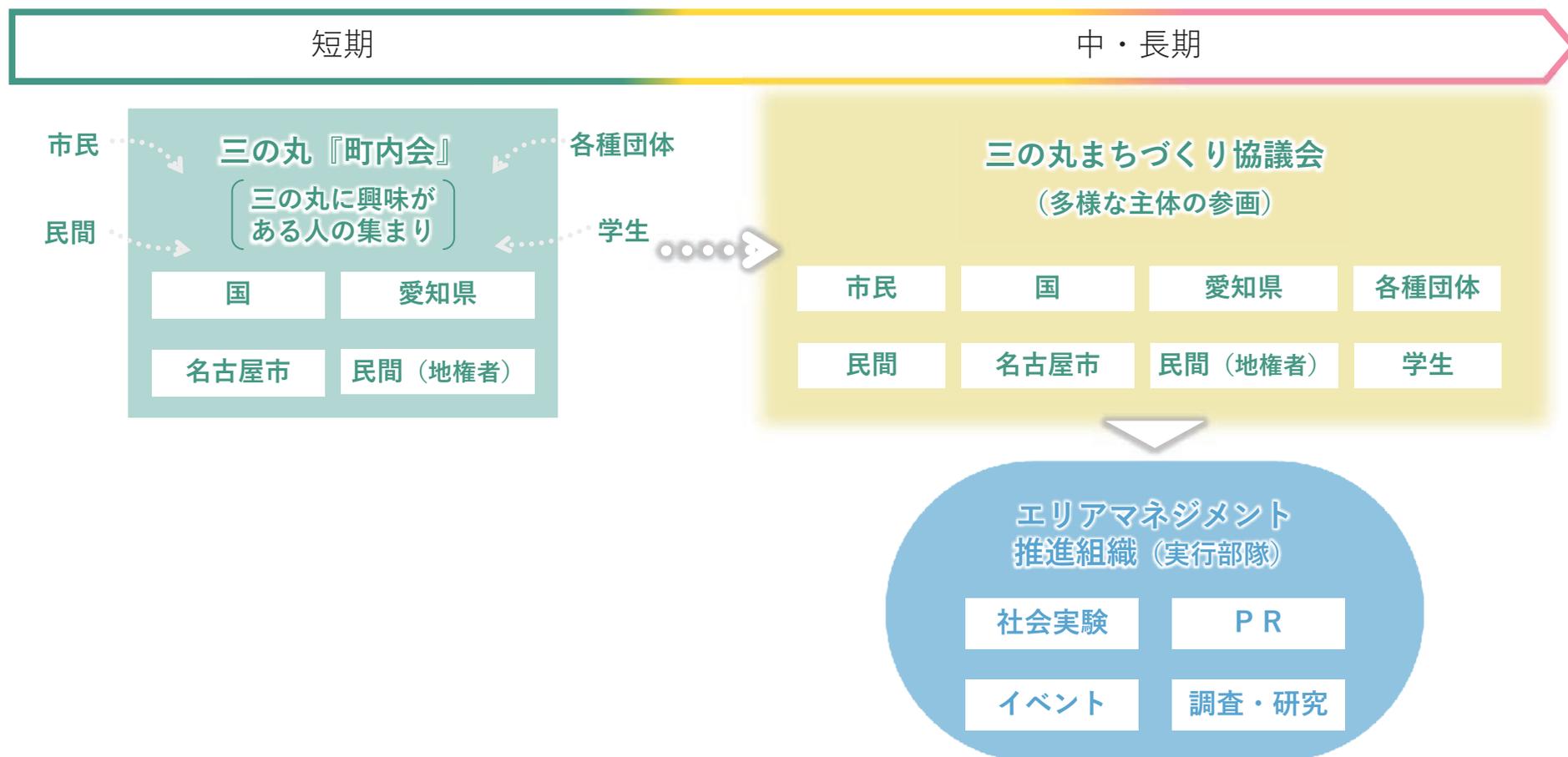
⋮

⋮

## まちづくりの推進体制

## 多様な主体が参画するまちづくり協議会を構築し、まちづくりを推進

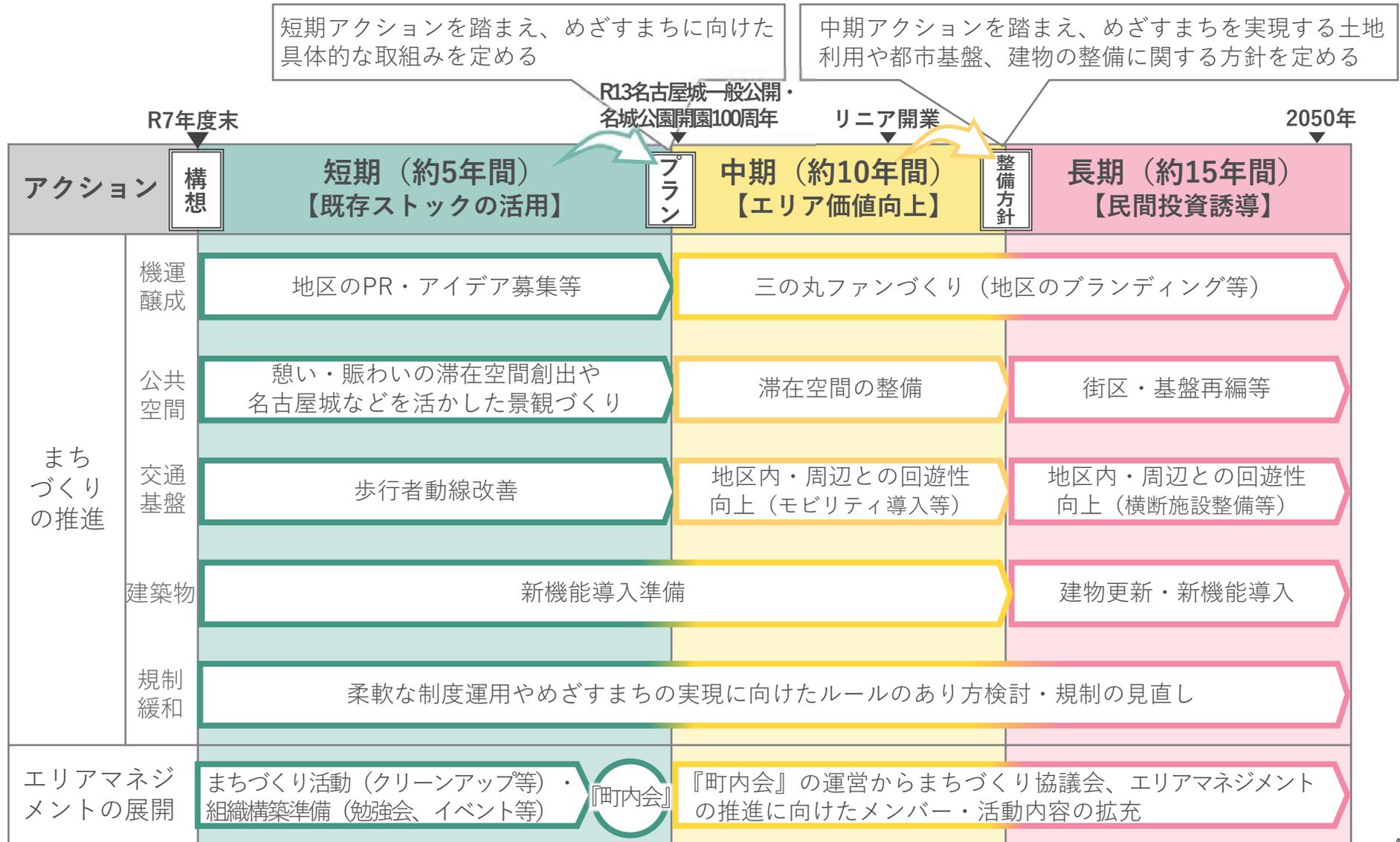
- 三の丸に興味がある人から、徐々に外部の主体を巻き込みながら、多様な主体でまちづくりを協議・検討するまちづくり協議会をつくる。これまで三の丸に携わったことがない人や若い世代の人々などがまちづくりに参画しやすい環境づくりに配慮する。
- その方針のもと各種の取組み（情報発信、魅力的な空間の形成など）を実践するエリアマネジメント推進組織を設置する。



## ロードマップ

めざすまちの実現に向けて、できることから着実に取り組み段階的に進めていくとともに、計画期間にとらわれず、進捗状況に応じて前倒しも視野に入れながら、エリア一丸となって推進していきます。

また、次の段階に移行する際に進捗状況を評価するとともに、まちづくりの取組みをより具体化し進めていくためのプラン、整備方針を策定します。



## アクションプラン【短期】

## 【短期（～R12）における地区内及び周辺の主な動き】

- ・ I G アリーナ開業による来訪者の増加
- ・ 名古屋第4地方合同庁舎敷地内の広場整備による賑わいの創出
- ・ SRTの運行開始による名古屋駅地区との利便性向上
- ・ 名古屋城一般公開・名城公園開園100周年を目途とする拠点形成
- ・ 金シャチ横丁第二期整備（多目的休憩所）による新たな賑わいの創出



名古屋第4地方合同庁舎整備イメージ  
（名古屋ミノマル株式会社提供）



IGアリーナ  
（画像提供：IGアリーナ）

## 構想策定後（R8～）の取組みの方向性

## 機運醸成

新しくなる三の丸の  
イメージを共有

名古屋城三の丸地区が**新しくなるイメージを浸透**

- ▶ 地区のPR・アイデア募集
- ▶ イベントの実施

など

## 公民共創

“ひらく”の実行主体を  
増やしていく

**目に見えるアクション**を実施し次の**ひらく主体**をみつける

- ▶ 民間提案を募集・事業実施
- ▶ 行政・部署横断的な活動（前庭、道路、公園等）

など

## 体制構築

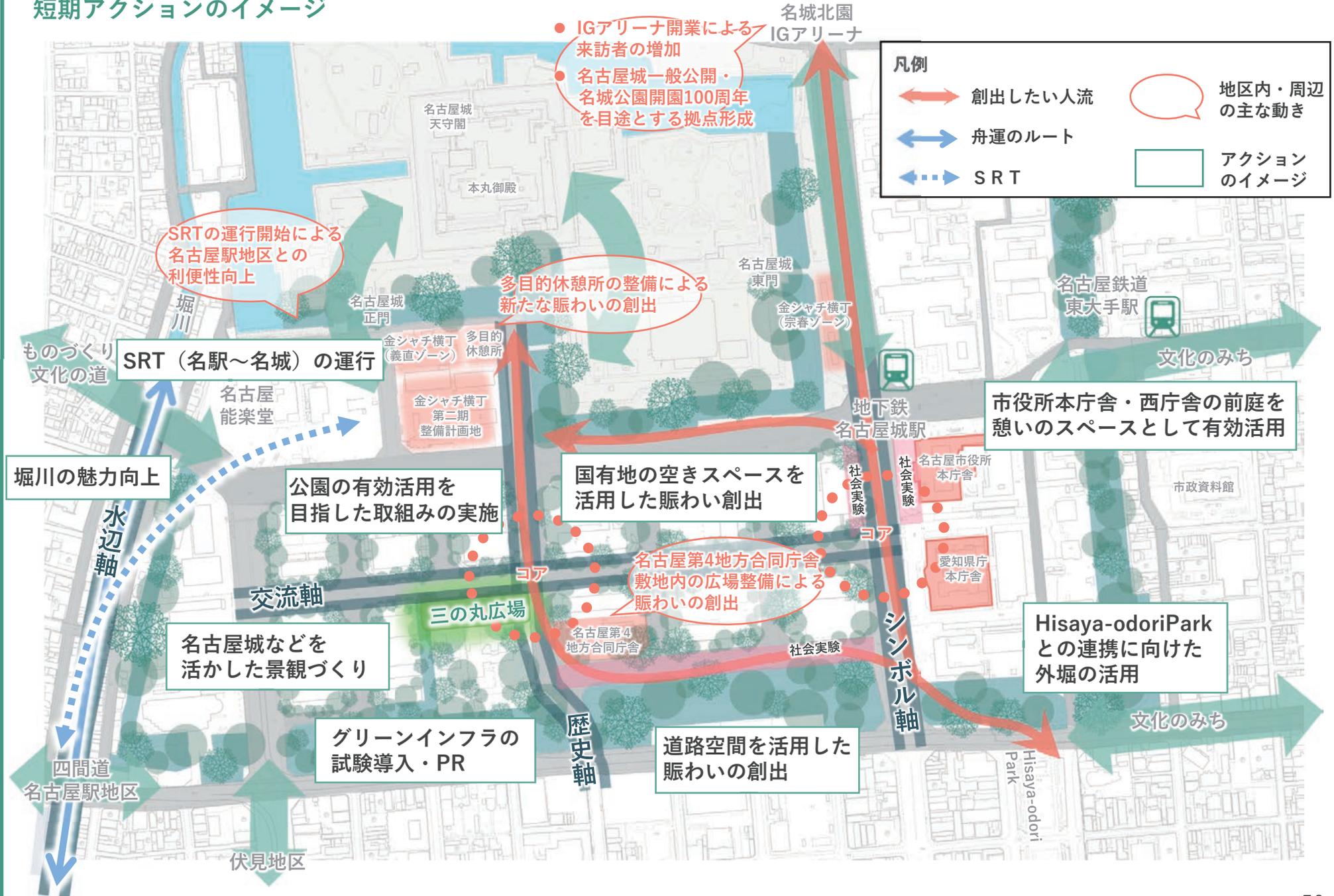
将来を考えていく  
仲間づくり

地権者等と**連携**し、地区の**未来**を共創する

- ▶ まちづくり『町内会』発足に向けた勉強会の実施
- ▶ 多様な主体の参画に向けた**アクションのコーディネート**

など

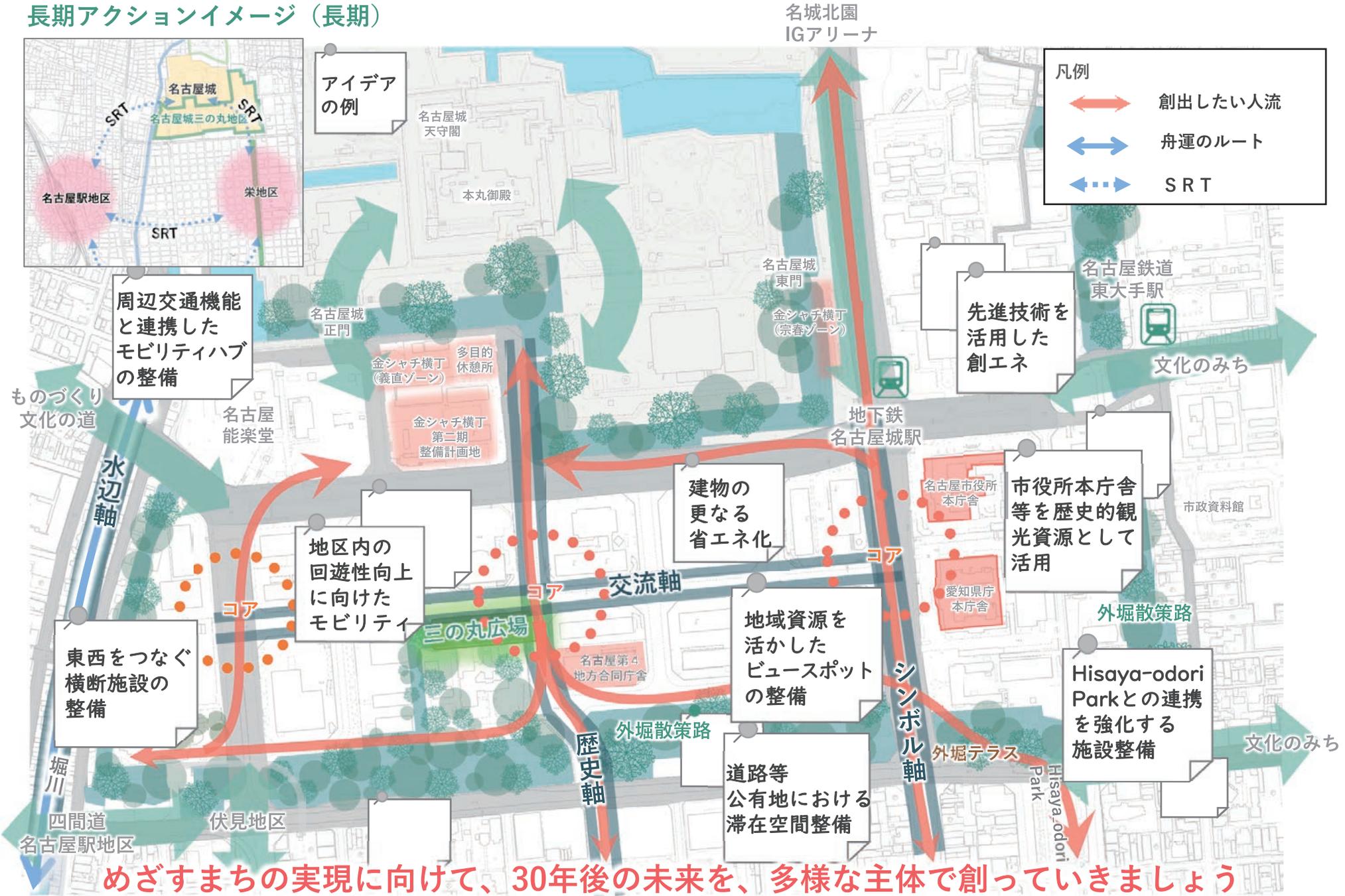
短期アクションのイメージ



## 短期アクションのイメージ

短期（概ね5年後）の 地区の目に見える新たな変化	アクションの内容など	関係者	めざすまち No. (P.32)
① 周辺地区との連携強化	SRT（名駅～名城）の運行	市（住宅都市局）	4, 5
	外堀の活用	市（住宅都市局、 緑政土木局）	6, 7
	堀川の魅力向上	市（緑政土木局、 住宅都市局）	6, 7
② 憩いの空間でゆっくりと くつろぐことができる	前庭空間の活用	地権者	5, 7
	公園の有効活用を目指した取組みの実施	国, 市（住宅都市局、 緑政土木局）	2, 5
	グリーンインフラの試験導入・PR	市（環境局）	1, 5
③ 歴史を体感できる	多目的休憩所の整備（金シャチ横丁内）	市（観光文化交流局）	5, 6
	名古屋城などを活かした景観づくり	市（住宅都市局、 観光文化交流局、 緑政土木局）	5, 6, 7
④ 新たな人の流れが生まれる	道路空間を活用した賑わいの創出	市（住宅都市局、 緑政土木局）	5, 7
⑤ 人と人のつながりが生まれる	『町内会』の立上げ、まちづくり活動の推進	地権者	5, 6

### 長期アクションイメージ (長期)



# 參考資料

国土・中部圏レベル（中部圏広域地方計画 中間とりまとめ（案）（R7））

<期待される役割>

名古屋城三の丸地区などの拠点機能の強化等により、世界から人や企業を惹きつけ、魅力と活力にあふれる強靱なまちづくり

【目指す中部圏の将来像】 生活の質が高く持続的に成長する強靱な中部圏		
将来像を実現するための5つの観点	人々の暮らし	[目標1] すべての地域が魅力あふれる生活圏の創出
	経済を支える産業	[目標2] ものづくりを礎に世界をリードし続ける産業への進化
	日本中央回廊の形成による国際競争力の強化	[目標3] 日本中央回廊による効果を最大化する圏域づくり
	多様な自然資源を生かした国土管理	[目標4] 自然の恵みの保全と活用
	災害への備えや適切なインフラ管理	[目標5] 強靱な圏土の構築

愛知県レベル（愛知県地域強靱化計画（R7））

<期待される役割>

三の丸地区周辺に位置する行政機関を中心に、国と連携した災害応急対策

基本目標

- 1 県民の生命を最大限守る。
- 2 地域及び社会の重要な機能を維持する。
- 3 県民の財産及び公共施設、愛知県を始め中部圏全体の産業・経済活動に係る被害をできる限り軽減する。
- 4 迅速な復旧復興を可能とする。

<期待される役割>

- 将来の都市構造において、注力していく「縦軸のまちづくり」の拠点の1つとして、他の拠点と広域的な連携や高次な都市機能の集積を図ること

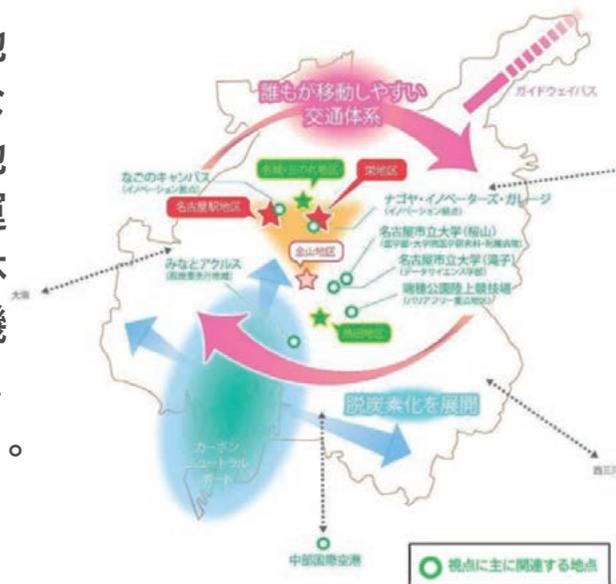
成長をけん引する都市活力

名城・三の丸地区、熱田地区を中心とした歴史遺産等を活用した名古屋独自の魅力づくり (歴史・文化魅力軸の形成)

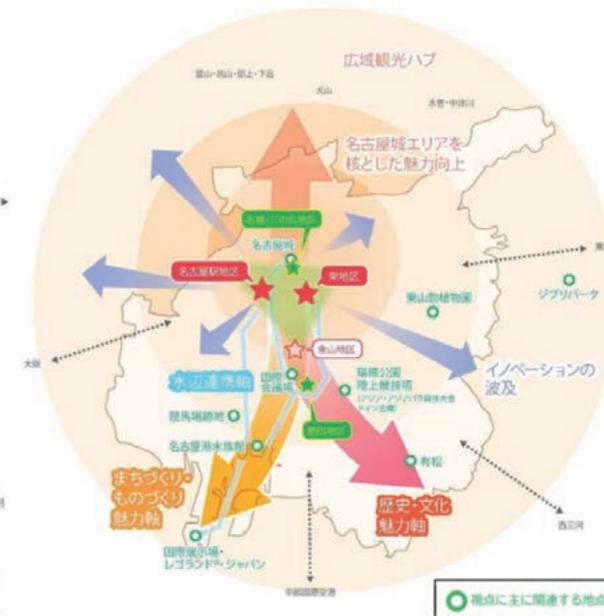


<プロジェクト (三の丸まちづくり)>

- 官庁街である名古屋城三の丸地区は、名古屋城と都心部をつなぐ重要なエリア。恵まれた立地条件や地域資源を活かし、機運醸成を図りながら、多様な主体が連携し、行政機能と新たな機能が両立した魅力的で強靱なまちづくりを戦略的に進めていく。



都市基盤の視点のイメージ



都市活力の視点のイメージ

## 名古屋都心部 (都心部まちづくりビジョン (H31))

### まちづくりの方針 (都心部)

1. 国際競争力の強化と民間投資を誘発する環境整備
2. 訪れたいくなるワクワク感のあるまちを実現する都市魅力の向上
3. 都会性とゆとりが両立した名古屋ライフスタイルの実現

<期待される役割 (名城地区)>

- 名古屋のまちづくりの礎たる歴史・文化資産を様々な形でまちづくりに活用することにより、奥行きと多様性のある都市の姿を実現

#### 【実現に向けて】

名古屋城天守や本丸御殿などの歴史性に加え、重要文化財である市庁舎等や豊かな緑を有する官庁街の落ち着きある雰囲気醸成することにより、名古屋都心部の奥行きと多様性を向上する。

- 他の拠点との連携を強化することにより、観光拠点の賑わいを都心全体に広げること、都市の回遊性を向上させる

#### 【実現に向けて】

休日における官庁街のオープンスペースの利活用などにより、官庁街による人の流れの分断解消を図る。

<都市軸の将来像>

### 本町通

名古屋城と熱田を結ぶ旧街道に由来する通りとして、名古屋の歴史を感じながら都心を回遊できる仕掛けをつくる



都市軸のまちづくりの推進により、各拠点の賑わいを都心部に展開し、都心部内の各エリアを結びつけることで、名古屋の都心を一体的な構造へ



### 名城エリアにぎわい共創基本構想（R7）

名城エリアが誇る名古屋城築城からの歴史的ストーリー等を踏まえた新たな魅力創出や魅力資源の面的な活用により、名古屋第一級の歴史・観光・文化・スポーツの拠点機能の形成を目指すため、名古屋城一般公開・名城公園開園100周年となる令和13（2031）年を目途とした、多様な活動主体が一丸となって戦略的に取り組む上での指針

#### 目指すべき姿

名古屋城築城からの歴史と多様な魅力を発信し続けるにぎわい拠点

<にぎわい拠点形成に向けた方向性と主な取り組み>

#### 方向性1 歴史・文化を基軸に多様な魅力を生み出す空間づくり

- 取り組み方針：1-1 歴史・文化を活かした空間づくり  
 1-2 名古屋城及び周辺の魅力向上  
 1-3 北園及び周辺の魅力向上  
 1-4 快適で魅力的な空間づくり

#### 方向性2 名城エリア全体で回遊と一体感を生み出す仕掛けづくり

- 取り組み方針：2-1 一体感を感じられる空間づくり  
 2-2 回遊性の向上

#### 方向性3 持続可能なにぎわい拠点形成のための体制づくり

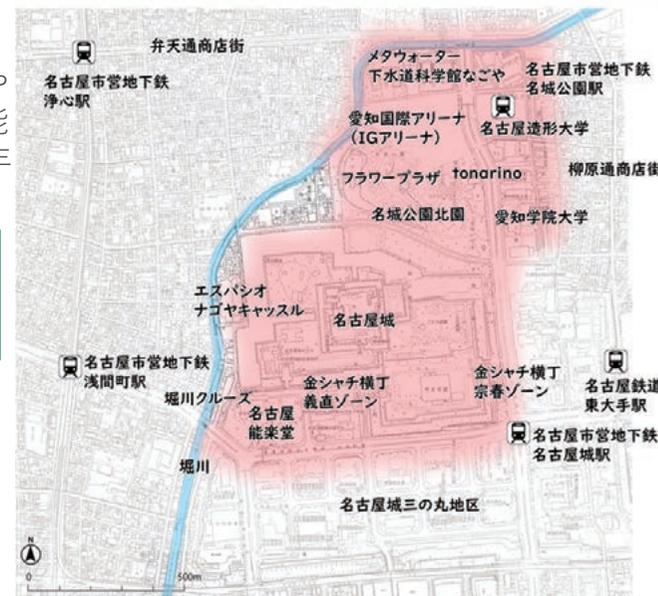
- 取り組み方針：3-1 体制づくり  
 3-2 民間事業者、大学関係者との連携

#### 方向性4 来訪者数の増加に対するアクセス対策

- 取り組み方針：4-1 名城エリアのアクセス検討  
 4-2 IGアリーナとの連携調整  
 4-3 名城公園駅の利便性向上  
 4-4 道路対策

#### 方向性5 市内周遊の促進に向けたエリア間の連携強化

- 取り組み方針：5-1 周遊性の向上



<名城エリアの範囲>



<名城エリアの現況>

特別史跡名古屋城跡保存活用計画 (H30)

目標

近世城郭の姿を現代に伝える特別史跡名古屋城跡の価値の確実な継承と魅力の最大限の向上により、世界に誇れる日本一の近世城郭を目指す

<三之丸外堀 整備の考え方>

城郭の縄張を構成している堀、城下町と城内をつないでいた各門であることを伝える説明板を整備し、広大な城跡の全体像を実感できる場とする。

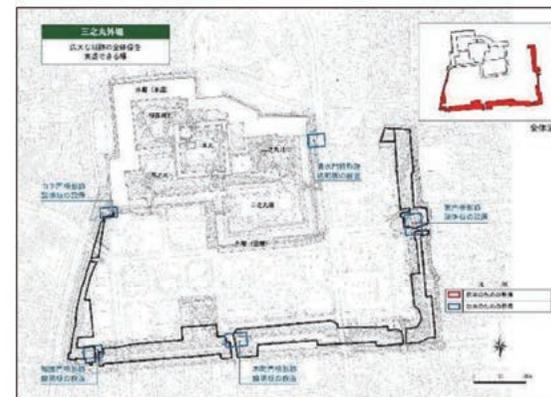


図 8-8 三之丸外堀の整備

世界の金シャチ横丁 (仮称) 基本構想 (H25)

目的

- ・本物志向で自慢のできる、交流やにぎわいの拠点づくり
- ・何度も訪れたいくなる、新鮮さのあるおもてなしの拠点づくり
- ・尾張名古屋の歴史や文化の魅力を集めた観光の基点づくり

<名古屋城とその周辺地区の位置づけ>

「歴史の中で培われた伝統文化」と「新たな都市魅力」をつなぐ結節点

空間づくりのイメージ

- ・能楽堂周辺の空間活用
- ・本町通のにぎわいづくり
- ・回遊性のある利用者動線
- ・周遊機能の充実



## 都心部の主要地区との比較

	名古屋駅地区	栄地区	名古屋城三の丸地区
都心部まちづくりビジョン	未来を体感し創造する 交流のターミナル	訪れる人々が心を解き放つ 都心のオアシス	歴史と文化に彩られた 名古屋のまちづくりの礎
地域別構想	世界に冠たる スーパーターミナル・ナゴヤ	栄まるごと感動空間 「最高の時間と居心地を提供」	—
歴史	明治～：駅とともにまちが形成・ 発展（明治19年駅開業） 平成：JRセントラルタワーズ竣工	石器時代～：竪三蔵通遺跡等 江戸～：城下町、碁盤割の町人街、 南に寺町 明治～：商業施設、百貨店等集積 令和：久屋大通再整備	石器時代～：三の丸遺跡等 江戸～：城郭、上級武家屋敷 明治～：軍用地 戦後～：官庁街
建物用途	オフィス中心（世界・全国的企業 の支社が集積） 百貨店・飲食などの商業 周辺に居住地	商業中心（地元老舗、百貨店・ブ ランド路面店、飲食） オフィス 都心居住が増加	行政中心 飲食店が存在しない
街並み	大規模高層ビルが多数 街区不整形 複雑な道路網	中・高層ビルが混在 街区規模一定・整形 格子状道路網 大規模公園（久屋大通）	中層・大規模ビル 整形街区（大街区化の可能性あり） みどりとゆとりの多い公共空間 整然とした街区、統一感のある景観 城郭・重要文化財（県市庁舎）
地域資源	超高層ビル、市場	オアシス21、サカエ ヒロバス、 テレビ塔	名古屋城、名城公園、堀川、能楽堂
回遊性	地下～高層ビルの縦移動が中心	面的に広がりのある回遊行動 大須・伏見など周辺地区と連携	久屋大通・名城とのつながり
まちの特徴、 キーワード	<b>シンボリックな高層ビル群</b> <b>世界的なスーパーターミナル</b> <b>ビジネス交流・創造拠点</b>	<b>碁盤に広がる多様な賑わい</b> <b>街全体でエンターテインメント</b> <b>住み・遊び・働けるまち</b>	<b>名古屋城下の歴史文化の継承地</b> <b>ゆとり・自然・風格に満ちた</b> <b>官庁街</b>

## 提言「三の丸再整備からはじまる城下町再生：三の丸ルネサンスの推進」(R3)

### 三の丸ルネサンス期成会とは

ポスト・コロナ、ポスト・リニアの時代を見据えて、名古屋の都市力を高め、東京一極集中を是正することを目指し、名古屋・三の丸地区の再整備からはじまる城下町再生、すなわち「三の丸ルネサンス」の実現を期成して、学識経験者、民間団体の有志が中心となり、名古屋商工会議所、中部経済連合会等の諸団体の賛同を得て、名古屋三の丸ルネサンス期成会を令和3(2021)年に設立。

設立の前、平成30年度に名古屋まちづくり公社では、学識経験者、民間団体等で構成された「三の丸地区再整備研究会」から三の丸地区の再整備構想を提案している。三の丸ルネサンス期成会は、この構想に、新たな視点を加え、提言を作成した。

### 提言の背景

① 三の丸地区再整備をめぐる気運の高まり

(周辺整備、防災拠点としての期待、官公庁施設が更新期)

② 東京一極集中是正から見た三の丸地区の重要性

(ポスト・コロナ、リニアにおける官民の首都機能の移転)

③ 城下町再生への期成

(国際的なリスペクト、地域プライドが得られる歴史都市へ)

### 提言の内容

老朽化が進んだ官公庁施設の耐震化・更新の時期を迎え、旧-名古屋貯金事務センターの移転をきっかけに、官公庁施設の集約・移転の検討が進展しており、三の丸地区の官公庁施設群は今後、順次、建て替えが検討される段階に突入したところである。

この機会を逃せば、三の丸地区に新たな都市機能を導入することは半世紀以上にわたり困難になることから、当事者である国、愛知県、名古屋市をはじめ、広く市民、県民、国民の関心を高めて、名古屋都心のまちづくりの百年の計を大いに議論し、その実現を図るべきである。

## 提言「三の丸再整備からはじまる城下町再生：三の丸ルネサンスの推進」 (R3)

### 三の丸地区のまちづくりに向けた5つの提言

#### 1) 官庁街への文化・交流機能の導入



#### 2) 三の丸と城下町をつなぐ名古屋三大祭の再生に着手



#### 3) 南海トラフ巨大地震等の有事に備えた地域強靱化のための拠点整備と連携強化

#### 4) 歴史的建造物である県・市の庁舎の活用による迎賓ホテル・博物館等の整備



#### 5) 名古屋城と久屋大通をつなぐにぎわいの創出とSRTによる都心回遊



## 東京一極集中の是正に向けた地域の機能強化と魅力向上に関する提言（R3）

### 背景

名古屋商工会議所と中部経済連合会は、以下のような課題が改めて認識される中、あらためて東京一極集中の是正に向けて、地域の経済団体が一丸となって取り組みを進める必要があるとの認識に立ち、その一つの方策として、2021年1月に共同提言を策定し、関係各所に建議した。

- ①激甚災害による政府・経済活動の機能不全リスク
- ②東京一極集中の進展に伴う首都圏とそれ以外の地域の格差拡大
- ③新型コロナウイルス感染症の拡大で顕在化したパンデミックリスク

### 政府（国）への提言

1. 政府機能の分散と地域の機能強化
2. 魅力を高め企業や人の流れを呼び込む地域づくり

### 中部圏とその中心都市名古屋に必要な重要施策

1. 中部圏の魅力を高め企業や人の流れを呼び込む地域づくりの実現
2. 中部圏・名古屋の機能強化とポテンシャル活用

中部圏の防災機能強化、及び三の丸地区(名古屋市)のポテンシャル活用

- ・基幹的広域防災拠点の整備、有事に備えたバックアップ機能の設置と当地域の防災拠点としての機能強化の検討
- ・平時には名古屋都心部の魅力・吸引力を高める再整備の推進等

## 構想の策定経緯

### 令和6年度

日程	検討内容
庁内推進部会	
R6.8.8（書面）	まちづくり構想の進め方、名古屋城三の丸地区の特性・課題などについて
R6.12.24	めざすまちの姿などについて
有識者懇談会	
R6.9.9	名古屋城三の丸地区の特性・課題、最近の潮流などについて
R7.2.4	めざすまちの姿などについて



## 構想の策定経緯

### 令和7年度

日程	検討内容
庁内推進部会	
R7.6.27	名古屋城三の丸地区まちづくり構想（案）について
R7.8.20	名古屋城三の丸地区まちづくり構想（案）の修正内容について
庁内幹事会	
R7.8.29	名古屋城三の丸地区まちづくり構想（案）について
庁内推進会議	
R7.9.9	名古屋城三の丸地区まちづくり構想（案）について
有識者懇談会	
R7.10.16	名古屋城三の丸地区まちづくり構想（案）について

名古屋城三の丸地区まちづくり構想有識者懇談会

委員

役職	所属	氏名
座長	名古屋学院大学名誉教授	井澤 知旦
委員	名古屋大学大学院情報学研究科准教授	浦田 真由
	岐阜大学客員教授	加藤 義人
	名古屋工業大学大学院工学研究科教授	鈴木 弘司
	都市再生機構中部支社都市再生業務部長	羽田 俊之 (R6年度)
		岩田 英之 (R7年度)
	芝浦工業大学環境システム学科教授	増田 幸宏
一般社団法人バーチュデザイン代表理事	吉高 まり	

## 名古屋城三の丸地区まちづくり構想有識者懇談会

### 主なご意見

【第1回有識者懇談会】

事項	主なご意見
環境・サステナビリティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地区の<b>みどり</b>や<b>生物多様性は強み</b>になるのではないか</li> </ul>
安心・安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地域としての<b>強靱性、機能継続性を有すれば、地区の価値</b>の向上につながる</li> </ul>
価値・魅力	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 重要文化財である<b>名古屋城や市本庁舎などを、座りながら落ち着いて眺めることができる場所</b>があるとよい</li> </ul>
交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地区内施設を移動するために新しいモビリティの活用や自動運転を含めた空間の有効活用を検討すべき</li> </ul>
人中心	<ul style="list-style-type: none"> <li>● セットバックなどの公共的空間や道路などの豊かな公共空間を、どのように市民や観光客など官庁以外の人に活用してもらうかも考える必要がある</li> <li>● <b>三の丸は市民にどうひらいていくかが重要</b></li> </ul>
あいち・なごやらしさ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>三の丸に来ないと体験できない価値</b>が提供できるとよい</li> </ul>
景観	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 地区内から名古屋城が見えず、地区が有する格式や格調を土地利用として活かせていない</li> </ul>
体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 組織や立場を越えて当地区をどうしていくかを語りながら様々な活動をし、それを発信する「<b>三の丸町内会</b>」などと名付けた緩やかな組織を作ってはどうか</li> </ul>

## 名古屋城三の丸地区まちづくり構想有識者懇談会

### 主なご意見

【第2回有識者懇談会】

事項	主なご意見
めざすまち	● まちに様々な機能があるのは良いが、いろいろあると特徴がぼやけてしまうため、 <b>わかりやすい特徴をつくるとよい</b>
	● <b>災害に強いこと・先進的な取組みを行うことが魅力になる</b>
	● <b>女性や若者にまちをひらくことを打ち出すべき</b>
	● <b>新旧の建築物を融合させることが重要</b>
地区の空間の考え方	● <b>天守のビューを活かした空間を形成し、ブランド性を上げる必要がある</b>
	● 道路空間のあり方について、 <b>移動性と滞在性を高める空間の位置付けをゾーニングとセットで整理することが必要</b>
地区内外の主な人の動き	● <b>久屋大通からの人を呼び込む仕掛けを考える</b>
アクションプラン	● 三の丸が動くチャンスを活かすためには、 <b>まちづくりを個別ではなく、連携して進めることが重要</b>

主なご意見

【第3回有識者懇談会】

事項	主なご意見
環境・サステナビリティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>● AIによる<b>ライフスタイルの変化に対応したエネルギー</b>についても検討が必要</li> </ul>
安心・安全	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 共助やエネルギーシステムなどの要素を強化するとともに、<b>要素間のつながり</b>をつくっていくことが大切</li> </ul>
価値・魅力	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 官庁街だからこそその価値は何か、<b>三の丸としての価値・ブランド・イメージづくり</b>に取り組んでいく事が大切</li> <li>● <b>投資に見合う価値</b>を示していく事が大切</li> <li>● <b>多様な主体でまちづくり</b>を進めることで価値が生み出される</li> </ul>
交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 自動車中心で構成されている道路空間のあり方を考えていく中で、<b>今ある機能についての検討</b>も必要</li> </ul>
アクションプラン	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 女性や若者にまちをひらくことを打ち出すとともに、<b>多様な主体を見つけて地域に動きを与えていく</b>ことが必要</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● <b>まちが一丸となって取り組める</b>、イベントや機運をつくっていくことが必要</li> <li>● どのように機運醸成をしていくか、今後計画していくことが必要</li> </ul>

## 用語集

行	用語	解説
あ	イーエスジー ESG投資	定量的な財務情報に加え、非財務情報である環境（Environment）・社会（Social）・ガバナンス（Governance）の要素を考慮した投資。
	一団地の 官公庁施設	建築物や付帯施設について一団地として総合的に計画することにより、行政の能率化や住民の利便を図り、都市を象徴する官公庁施設地区となるようにする地区。
	インフラ	インフラストラクチャーの略で、道路や公園、上下水道施設など、生活や産業の基盤となる施設。
	ウェルビーイング	身体・精神・社会的に良好な状態であることを意味する概念。
	ウォーカブル	居心地がよく歩きたくなるまちなか。
	エスアールティー SRT	Smart Roadway Transitの略で、技術の先進性による快適な乗り心地やスムーズな乗降、洗練されたデザインなどのスマート（Smart）さを備え、路面（Roadway）を走ることでまちの回遊性やにぎわいを生み出す、今までにない新しい移動手段（Transit）の呼称。
	エリア マネジメント	特定のエリアを単位に、民間が主体となって、まちづくりや地域経営を積極的に行おうとする取り組み。
	オープンスペース	敷地内に設けられた誰もが利用できる緑地や空地。

## 用語集

行	用語	解説
か	カーボン ニュートラル	温室効果ガスの排出量と吸収量との間の均衡が保たれること。
	郭内処理委員会 申し合わせ事項	城郭内建築について法定の規制のほか、建築物の外観、前庭など都市の美観、特に公園的雰囲気の醸成に関する独自のルールを定めたもの。
	グリーンインフラ	自然環境が有する多様な機能（生きものの生息・生育の場の提供、良好な景観形成、気温上昇の抑制など）を積極的に活用して、さまざまな効果を得ようとする取り組み。
	グリーンスローモビリティ GSM	Green Slow Mobilityの略で、時速20km未満で公道を走ることができる電動車を活用した小さな移動サービスで、その車両も含めた総称のこと。
	グリーントランスフォーメーション GX	Green Transformationの略で、クリーンなエネルギーに転換するという意味で、企業経営をするうえで必要となる燃料の燃焼、電力の使用にかかるエネルギーをクリーンなものに転換するという試みのこと。
	高次都市機能	行政機能、商業、福祉、教育など都市の持つ機能のうち、日常の生活圏よりも広い範囲から利用される質の高いサービスのこと。
さ	再生成	既存のものを活かしてより良いものに作り変えること。
	サステナブル	持続可能なという意味。

## 用語集

行	用語	解説
さ	三英傑	織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の三人をまとめた呼称。
	三の丸遺跡	発掘調査により発見された三之丸曲輪内の遺構。武家屋敷跡、溝、井戸、土坑、柱穴、排水施設跡等の遺構が発見されている。
	シームレス	「継ぎ目のない」の意味。公共交通分野におけるシームレス化とは、乗り継ぎなどの交通機関間の「継ぎ目」や交通ターミナル内の歩行や乗降に際しての「継ぎ目」をハード・ソフト両面にわたって解消することにより、出発地から目的地までの移動を全体として円滑かつ利便性の高いものとする。
	シビックプライド	まちへの愛着や誇りのこと。
	城郭	城や砦。外敵の侵攻から守るために築かれた防御施設。江戸時代には幕府が城と認めたものに限られるが、今日では陣屋や台場などを含めることがある。
	自立・分散型エネルギーシステム	建物内で利用するエネルギーを、その建物内もしくはその周辺に設置されたエネルギープラントより供給するシステムのこと。
	ソサエティ Society 5.0	狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く、サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する社会。

## 用語集

行	用語	解説
た	超小型モビリティ	自動車よりコンパクトで小回りが利き、環境性能に優れ、地域の手軽な移動の足となる1～2人乗り程度の車両。
	デジタルトランスフォーメーション DX	Digital Transformationの略で、将来の成長、競争力強化のために、新たなデジタル技術を活用して新たなビジネスモデルを創出・柔軟に改変すること。
	天守	近世城郭の中心となる高層建築。名古屋城では、慶長17年（1612）に創建され、昭和20年の戦災で焼失した天守をいう。
	天守閣	近代になって生まれた、天守に対する俗称。名古屋城では昭和34年（1959）に再建された現在の天守閣をいう。
	特別史跡	文化財保護法で指定した史跡のうち、特に歴史上、学術上の価値の高いものとして文部科学大臣が指定した史跡。

## 用語集

行	用語	解説
は	バックキャスト	未来の目標や状況を想定しそこから現在に戻って何をすればよいかを考える思考法。
	パブリックライフ	公共空間における人々の生活・活動のこと。
	ピーシーディー BCD	Business Continuity Districtの略で、災害時の業務継続に必要なエネルギーの安定供給が確保される業務継続地区のこと。
	風致地区	都市における良好な自然的景観を維持するために、都市計画法に基づいて指定する地区。
	フォアキャスト	現在や過去のデータから未来を考える思考法。
	文化のみち	名古屋の近代化の歩みを伝える歴史的な遺産の宝庫ともいえる名古屋城から徳川園に至る地区一帯。
ま	マース MaaS	Mobility as a Serviceの略で、出発地から目的地まで、利用者にとっての最適経路を提示するとともに、複数の交通手段やその他のサービスを含め、一括して提供するサービス。
	マイス MICE	企業等の会議（Meeting）、企業等の行う報奨・研修旅行（インセンティブ旅行）（Incentive Travel）、国際機関・団体、学会等が行う国際会議（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）の頭文字。多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。

## 用語集

行	用語	解説
ま	前庭	名古屋城三の丸地区において、原則として敷地境界から15m壁面後退した範囲のことで、緑地帯や通路、駐車場等として利用されている。
	ものづくり文化の道	名古屋駅北東に位置する西区の南部地域において、「ものづくりを中心とした地域の魅力を再発見し、人とモノのネットワークを構築することによって地域の活性化を図るためのまちづくり」。
ら	リジェネラティブ	再生成と同じ意味。既存のものを活かしてより良いものに作り変えること。
	レジリエンス	回復力・復元力を意味し、ダメージを受けても粘り強くもとに戻りながら、しかも以前よりもより良い状態に立ち直る能力のこと。

